MSXView

エムエスエックス・ビュウ

VSHELLマニュアル

ASCII

はじめに

このたびはMSXView（エムエスエックスビュウ）をお買い上げいただきありがとうございます。

MSXViewは、画面に表示されたアイコンとメニューにより、プログラムの起動やファイルの複写や削除などの作業を簡単に行うことができる視覚的な操作環境（GUI：グラフィカルユーザーインターフェイス）を提供するシステムソフトウェアです。MSXViewに対応したソフトウェアは使い方が統一されるので、異なるソフトウェアを使うときも、操作方法を覚えるのが簡単です。
したがって、はじめてパーソナルコンピュータに触れる初心者の方でも、わずかな学習で無理なく、仕事やプライベートにコンピュータを利用できるようになりました。

このパッケージには以下のソフトウェアが付属しています。

・MSXViewの環境をコントロールする
「VSHELL」（ブイシェル）
・図形を描いたり、図表を作成する
「ViewDRAW」（ビュウドロウ）
・簡易日本語ワープロとしても使えるテキストエディタ
「ViewTED」（ビュウテッド）
・ドット単位で図形を描くグラフィックエディタ
「ViewPAINT」（ビュウペイント）
・MSXView上で電子的な「本」を作成し、実行する
「PageBOOK」（ページブック）

これからこのマニュアルでは、MSXViewの世界とアプリケーションを使用するための準備について説明していきます。アプリケーションの詳しい使い方については、本マニュアルを読んだ後で、それぞれのマニュアルをお読みください。
MSXViewでHALNOTEのアプリケーションやデスクアクセサリを使うことはできませんが、HALNOTEアプリケーションで作ったデータファイルはMSXViewのアプリケーションで読み込むことができます。しかし、その逆はできません。
なお、このマニュアル掲載の図版は、特別な方法で制作されています。そのため、実際の製品とは画面表示が異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
マニュアル中にたびたび「GRAPH＋Qキーを押してください」というような文章が出てきますが、これはGRAPHキーを押したままQキーを押してくださいという意味です。CTRL＋Cキーでも操作方法は同じです。

ご注意

(1) このソフトウェアおよびマニュアルの内容の一部または全部を株式会社アスキーに無断で使用、複製することはできません。

(2) このプログラムは個人として利用するほかは、著作権上、株式会社アスキーに無断で使用することはできません。

(3) 製品の仕様は将来予告なく変更することがありますが、製品登録カードをご返送いただいた方にはそのつどご案内いたします。

(4) 製品の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気付きの点がございましたら弊社までご連絡ください。

(5) 本ソフトを運用した結果の影響については、(4) 項にかかわらず責任を負い兼ねますのでご了承ください。

(6) 本製品を複数の機械で同時に使用する場合は、機械と同じ数量の本製品が必要です。

目次

第1章　MSXViewを使う前に

1.1　パッケージの中身

パッケージの中に次のものがあるのを確認してください。

・ユーザー登録カード及びソフトウェア使用許諾書
・MSXView漢字ROMカートリッジ1個
・システムディスク2枚（保存用ディスク、実行用ディスク、各1枚）
・OverVIEWディスク1枚
・マニュアル2冊

もし足りないものがあるときは、お買い求めになった販売店か弊社までご連絡ください。

1. ユーザー登録カードおよびソフトウェア使用許諾契約書
MSXViewをご使用になる前に必ずお読みください。
「ソフトウェア使用許諾契約書」には、MSXViewをご使用いただく上での条件が記載されています。お客様が本契約に同意いただいた場合のみ、MSXViewの使用を許諾いたします。契約内容を十分確認してください。
同意いただけたときは、「ユーザー登録カード」に必要事項を記入の上、弊社までご返送ください。この「ユーザー登録カード」をもとにユーザー登録を行ない、今後バージョンアップのお知らせなどのユーザーサポートを行ないます。

※　「ユーザー登録カード」を返送いただけない場合、ユーザーサポートが受けられません。必ずご返送ください。

2. MSXView漢字ROMカートリッジ
MSXViewを動かすために必要な漢字ROMカートリッジです。
MSXViewを使用するときは、カートリッジスロットに挿入してください。拡張スロットに取り付けても使用できます。
このカートリッジは、必ずカートリッジスロットに挿入していなければならないというものではありません。使わなくても動作しますが、使うことによりきれいな文字を速く表示できます。

3．システムディスク

パッケージには、3枚のフロッピーディスクが入っています。
このうち2枚はシステムディスクで、「保存用ディスク」と「実行用ディスク」です。2枚の内容は同じで、「VSHELL」、「ViewDRAW」、「ViewTED」、「ViewPAINT」、「PageBOOK」が入っています。「実行用ディスク」は、これから使う作業用ディスクです。「保存用ディスク」は、万一「実行用ディスク」が壊れてしまったときに備えて大切に保管してください。
もう1枚は、OverViewディスクです。これは「VSHELL」の使い方を体験学習するためのディスクで、「PageBOOK」で作ってあります。

※ フロッピーディスクはカセットテープなどと同じように、強い磁気にさらされると内容が消えてしまいます。テレビ、モニタやスピーカーの上などに放置しないでください。また、絶対に事務用の磁石を使ったクリップなどではさまないでください。

MSXViewのシステムディスクは、自由に予備のバックアップを作ることができます。第1章「MSXViewを使う前に」を参照してください。

4．マニュアル

次の2冊のマニュアルが入っています。

・VSHELLマニュアル
初めてパーソナルコンピュータに触る方も、すでにある程度の知識のある方も、まずこのマニュアルを読んでください。MSXViewを動かすのに必要なハードウェア構成や、MSXViewのコンセプトとユーザーインターフェイス、日本語入力、「VSHELL」の使い方、ファイル管理の方法を説明します。

・アプリケーションマニュアル
標準装備されているMSXViewアプリケーションの「ViewDRAW」、「ViewTED」、「ViewPAINT」、「PageBOOK」の使い方を説明します。

1.2 必要なハードウェア

1.2.1 必ず必要なハードウェア

1. MSX turbo R

RAM256Kバイト、VRAM128Kバイト以上のMSX turbo Rが必要です。
MSXViewは、MSX turbo R専用のソフトウェアです。

2. モニタ

MSXとモニタの接続方法には4種類あります。上から順にからニジミの少ない映像を表示します。

- ・アナログRGB入力
- ・S端子入力（MSXによってはS端子が付いていない機種もある）
- ・ビデオ入力
- ・RF入力

アナログRGB入力のあるテレビやモニタに接続するとニジミのない、シャープで美しい映像で使えます。
S端子入力に接続しても美しい映像で使えます。S端子が付いているMSX turbo Rには、FS-A1STがあります。
一般的なテレビにも接続できますが、ビデオ入力、RF入力に接続すると画面がニジミ、文字の色によって漢字など見にくくなります。
詳しくはお持ちのMSXとテレビ、モニタのマニュアルをご覧ください。

3. 3.5インチフロッピーディスク

2DDの3.5インチフロッピーディスクを用意してください。システムディスクのバックアップのためや、MSXViewで作ったデータファイルを入れておくために使います。

1.2.2 あった方が便利なハードウェア

1. MSX用マウス

MSXViewはマウスがなくても使用できますが、マウスを利用するとずっと使いやすくなります。マウスの移動によって画面のポインタを移動し、ボタンをクリックして実行します。特に、「ViewDRAW」の図形モードではペン代わりに使います。ぜひ用意してください。

2. 外部フロッピーディスクドライブ装置

1台でもMSXViewは使用できますが、アプリケーションによっては作業途中でフロッピーディスクの交換が発生するときがあります。スムーズにお使いいただくには、本体内蔵と外部ドライブ、合わせて2台のドライブをおすすめします。

3. ハードディスクとハードディスクインターフェイス

ハードディスクの読み込み、書き込みのスピードはフロッピーディスクよりも高速ですから、快適な作業環境になります。

また、ディスクの容量が大きいので、MSXViewのシステムファイルとデータファイルを全てハードディスクに入れておくこともできます。そうすると、複数のフロッピーディスクを使って作業をすることやフロッピーディスクの入れ換えもなくなります。

ハードディスクを接続するときは、弊社の「MSX用ハードディスクインターフェイス」をお使いください。「MSX用ハードディスクインターフェイス」についてのお問い合わせは、株式会社アスキー直販部（03-486-7114）へお願いいたします。

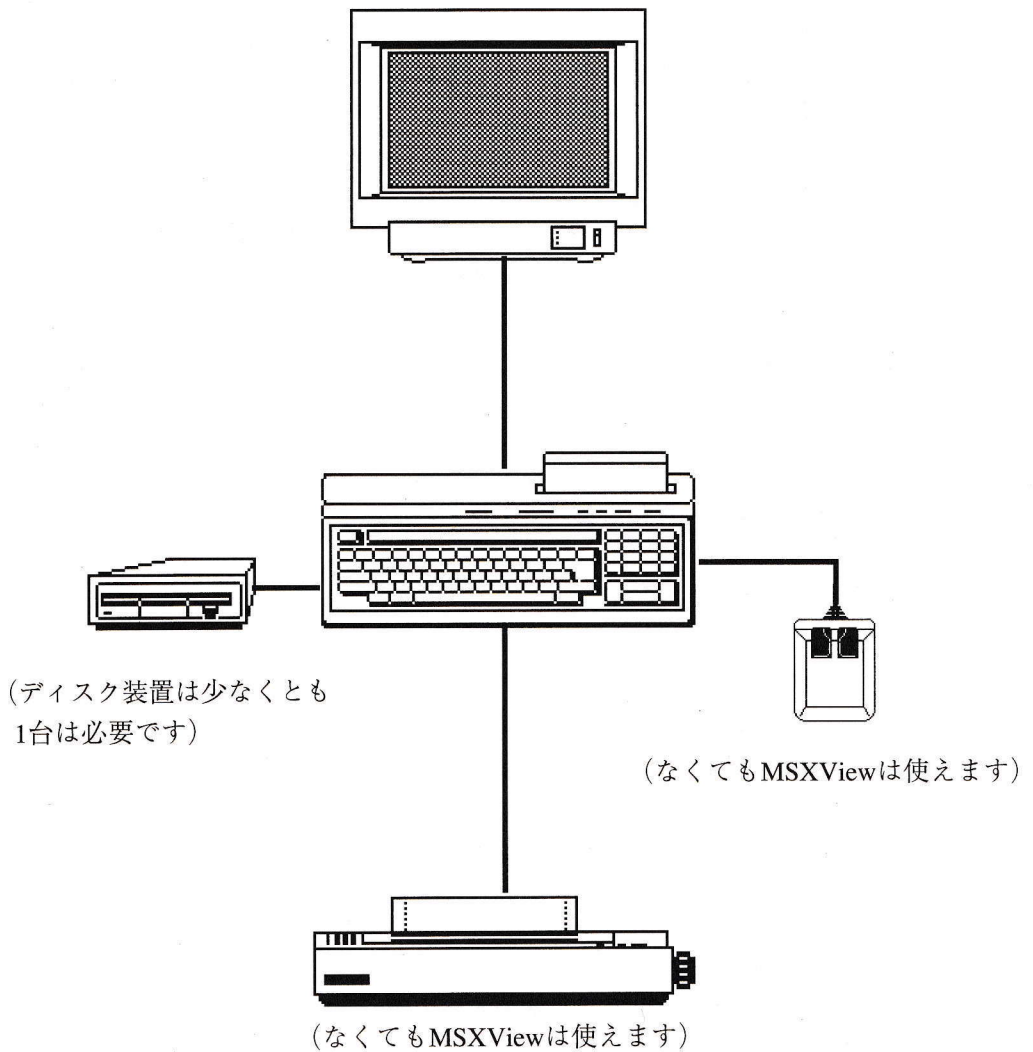
4. プリンタ

MSXViewは、ほとんどのMSX用プリンタに対応しています。しかし、一部のアプリケーションでは日本語を印字するために、漢字ROMを内蔵したプリンタが必要になります。これからプリンタを購入するのであれば、漢字ROM内蔵タイプのプリンタを購入するとよいでしょう。

○MSXView対応プリンター覧表

メーカー名	プリンタモデル
SONY	PRN-M24 (第2水準漢字ROM無し)
	PRN-M24 (第2水準漢字ROM有り)
	PRN-T24 (漢字ROM無し)
	PRN-T24 (漢字ROM有り)
	HBP-F1
	HBP-F1C
Brother	M-1024X (第2水準漢字ROM無し)
	M-1024X (第2水準漢字ROM有り)
	M-1024IIP/X (第2水準漢字ROM無し)
	M-1024IIP/X (第2水準漢字ROM有り)
	M-1224P/X
National	FS-P400
	FS-PW1
	FS-PK1
	FS-PA1
	FS-PC1
東芝	HX-P565
NEC	PC-PR201 (同等品含む第2水準漢字ROM無し)
	PC-PR201 (同等品含む第2水準漢字ROM有り)
EPSON	PI-40
	VP-500 (PCセット)
CANON	LBP406
関西電器	TR-24m
スター精密	TR-24CL

1.3　機器の接続

下の図のように、MSX本体、プリンタ、モニタ等を接続します。接続を行なうときは、必ずすべての電源を切っておいてください。

1.4　バックアップの作り方

1.4.1　バックアップが大切な理由

コンピュータを使っていて一番困るのは、フロッピーディスクに保存してあるデータやアプリケーションが壊れてしまい、利用できなくなることです。壊れる原因は、いろいろあります。

1.　フロッピーディスクのプラスチック部分が壊れる

3.5インチのフロッピーディスクは、丈夫なプラスチックのケースに入っていますが、それでも乱暴に扱うことは禁物です。落として割ったり、金属シャッター部分を曲げたりしてはいけません。また、変形したフロッピーディスクをMSXのドライブに入れないでください。

2.　汚れによる破壊

ディスク面にホコリやタバコの灰、コーヒーなどの水分が付着しないように注意してください。また、汚れたディスクをMSXのドライブに入れないでください。

3.　磁気による破壊

フロッピーディスクは、音楽用カセットテープと同じように磁気でデータを記録しています。ですから、磁石の近くなどに置くとデータが消えてしまいます。その他、テレビ、モニタ、スピーカーの上に長時間放置したり、事務用品の磁石付きクリップなどではさんだりしないでください。

4.　操作ミスによる破壊

ファイルのコピーや更新時にセットするフロッピーディスクを間違えて、必要なファイルを消去したり、書き変えてしまうことがあります。

1.4.2　いつバックアップを作るか

せっかく作った住所録や大切な文書など、最初から入力のやり直しになっては大変です。特にデータ量が増えてから、こうしたトラブルに出会うと取り返しがつきません。また、アプリケーションが壊れてしまうと、同じアプリケーションを入手するまで仕事ができなくなります。

こんなときに、バックアップコピーをした予備のフロッピーディスクがあれば、被害を最小限にできます。いつバックアップを作るかは、コンピュータの使用頻度によっても変わりますが、一応の目安をあげておきます。

1.　データディスク

毎日長時間使うようであれば、仕事が終わったときに必ずバックアップを作りましょう。少なくとも一週間に一度はバックアップを作る習慣を付けたいものです。

データ量が増えてくると、手間のかかるバックアップは敬遠しがちになります。でも、データが壊れてから後悔しないように定期的にバックアップしてください。

2.　アプリケーションやシステムディスク

購入したパッケージを開けて、実際に使い始める前にバックアップを作ります。

普段は、バックアップディスクを使用し、オリジナルは大切に保管しておいてください。使用しているアプリケーションが壊れたときには、保管しておいたオリジナルからもう一度バックアップを作ってください。

1.4.3　バックアップの作り方

パッケージに付属してきたシステムディスクのバックアップは、MSX-DOS上で作ります。MSX-DOSのコマンドを知らなくても、バックアップ専用のコマンドを用意してありますから大丈夫です。パッケージのシステムディスクの他に、新しい3.5インチ2DDのフロッピーディスクを2～3枚用意してください。

では、いったんMSXViewを起動してから、MSX-DOSへ戻ります。

以下の操作は、途中で電源を切らずに続けて行なってください。

1.　MSXViewの起動

電源を切った状態で、コンピュータのカートリッジスロットにMSXView漢字ROMカートリッジを挿入します。また、コンピュータとモニタやプリンタなどとの接続を確認してください。

(1)　モニタ、プリンタなど、コンピュータ以外の電源を入れます。

(2)　外部ドライブを接続している場合は外部ドライブに、接続していない場合は内蔵ドライブにMSXViewの実行用ディスクを入れます。
このときフロッピーディスクのライトプロテクト（書き込み禁止）タブを、窓がふさがった状態（書き込み可能）にしておいてください。

(3)　コンピュータの電源を入れます。フロッピーディスクの読み込みが始まり、しばらくするとVSHELLの画面が表示されます。

※　1ドライブのMSXに外部ドライブを増設している場合は、VSHELLの画面が表示されるまで CTRL キーを押していてください。

今はまだマウスを使ってマウスカーソルを動かすことはできません。キーボードを使って操作します。

2. MSXViewの終了

MSXViewを終了するときは、必ず以下の手順で行います。途中で電源を切ったり、リセットボタンを押したりすると、必要なデータが保存されないばかりか、最悪の場合システムディスクを壊す原因にもなります。

(1) SELECT キーを押して、タイトルメニューを開きます。
(2) 上下方向のカーソルキー（↑、↓）を押して、「終了」をリバース表示（黒字に白い文字）にします。
(3) リターンキーを押して、「終了」を実行します。
(4) 終了を確認するダイアログボックスが表示されます。左右のカーソルキー（←、→）を押して、「はい」をリバース表示にします。
(5) リターンキーを押します。VSHELLの画面が消え、しばらくするとMSX-DOSの画面に変わります。（「A>」が表示されます。）
(6) Aドライブのイジェクトボタンを押してシステムディスクを取り出します。作業中に間違ってシステムディスクの内容を消去したりしないように、ディスクのライトプロテクト（書き込み禁止）タブを下げて、窓が開いた状態（書き込み禁止）にしてから、もう一度Aドライブに入れてください。

※バックアップを作るときは、オリジナルとなるフロッピーディスクは必ず書き込み禁止にしましょう。

3. フロッピーディスクの初期化

パソコンショップなどで購入したフロッピーディスクは、そのままでは使えません。フロッピーディスクを、特定のマシンで使えるようにする作業がフォーマット（「イニシャライズ」、「初期化」と呼ばれることもある）です。

バックアップを作ったり、MSXViewアプリケーションのデータを保存するには、MSXでフォーマット済みのフロッピーディスクが必要です。

[注意] フォーマットを実行すると、フロッピーディスクに保存している情報はすべて消去されます。すでにデータやアプリケーションの入っているフロッピーディスクをフォーマットするときは、本当に消去してもかまわないか事前にチェックしてください。

(1) VSHELLを終了した画面には、「A>」が表示されています。
(2) キーボード「FORMAT A:」（小文字でもかまいません）と入力してリターンキーを押します。

(3)

```
1 - 1 side, double track
2 - 2 sides,double track
?
```

と表示されます。
フロッピーディスクドライブの種類を指定します。2DDフォーマットにしたいので「2」を入力します。

(4)

```
All data on drive A: will be destroyed
Press any key to continue...
```

と表示されます。これは、「Aドライブのフロッピーディスクの内容はすべて削除されます。よければ何かキーを押してください」の意味です。(2)で指定したドライブにフォーマットするディスクを入れます。Aドライブを指定したときは、システムディスクを取り出してフォーマットするディスクと交換し、リターンキーを押します。

※ 用意したフロッピーディスクを間違えていたり、何らかの理由でフォーマット作業を中止したいときは、[CTRL]+[C]キー([CTRL]キーを押したまま、[C]キー)を押してください。
(1)～(4)までの指定はキャンセルされ、「A>」に戻ります。フォーマットを開始してからは中止できません。

(5) 準備ができたら、リターンキーを押します(他のキーでもかまいません)。ドライブが回転を始め、フォーマット作業を開始します。
フォーマットが終了すると、「A>」が表示されます。

(6) フォーマットしたフロッピーディスクにボリューム名を付けます。MSX-DOSのコマンドの「VOL」コマンドを使います。ボリューム名を「MSXVIEW」にするのなら、キーボードから、「VOL　MSXVIEW」と入力してリターンキーを押します。ボリューム名として設定できる文字数は、最高全角で5文字、半角で11文字です。フロッピーディスクラベルにボリューム名を書いておくとフロッピーディスクが管理し易くなります。

※　「ボリューム名」とは、フロッピーディスクなどに付ける「名前」のことです。
通常は、何のためのディスクであるかの心覚えにしたり、個人用のデータディスクに自分の名前を書き込んでおくために使われたりします。

続けてフォーマットするなら、（2）～（6）までのステップをフロッピーディスクの枚数だけ繰り返します。

4.　バックアップ

オリジナルのシステムディスクとフォーマット済みのバックアップとなるフロッピーディスクを1枚用意します。システムディスクは書き込み禁止にしておきます。

<1ドライブの場合>

1ドライブでバックアップを作るときにはDUPコマンドを使います。

DUPは1ドライブでフロッピーディスクのバックアップを効率的に作成するプログラムです。

始めに複写元のディスクを用意してください。誤操作によるデータの破壊を防ぐために、書き込み禁止状態にしておいてください。

それからフォーマット済みのフロッピーディスクを用意してください。これが複写先のフロッピーディスクとなります。書き込み可能状態にしておくことを忘れないようにしてください。

使い方は、

```
A>DUP
```

と入力するだけです。ドライブとしては常にデフォルトドライブ（この場合はドライブA）が使用されます。最初に

```
Insert source disk and press any key.
```

と表示されて入力待ちになりますから、複写元のディスクを挿入してキーを押してください。次に、

```
Insert destination disk and press any key.
```

と表示されて入力待ちになりますから、複写元のフロッピーディスクを取り出して、かわりに複写先のフロッピーディスクを挿入してリターンキーを押してください。

※　複写元のフロッピーディスクと複写先のフロッピーディスクのフォーマットが違う場合（一方が1DDフォーマットでもう一方が2DDフォーマットだった等）は、再度このメッセージが表示され、もう一度複写先のフロッピーディスクの挿入を求められます。

複写先のフロッピーディスクの内容が空でなかったら、確認のため、

```
Destination disk is not empty.
Really copy (Y/N)?
```

と表示されます。コピーしたいときには Y を入力してください。

次に、フロッピーディスクを何回入れ換えなければならないかが表示されますので、目安にしてください。

後は、

```
Insert source disk and press any key.
```

と、

```
Insert destination disk and press any key.
```

が交互に表示されますから、それぞれ複写元、複写先のフロッピーディスクを挿入してリターンキーを押してください。キー入力待ちの時に CTRL ＋ C を押すことでいつでも中断する事ができます。

このプログラムはVRAMや使っていないメインメモリを作業領域として使用しています。そのために、スクリーンが漢字モードであっても、強制的に英字モードに切り換えます。また、フロッピーディスクの交換の回数を少なくするためには、RAMディスクを破棄（サイズを0にする）しておいたほうが望ましいです。

RAMディスクを破棄するには

```
A>RAMDISK 0
```

と、入力します。

RAMディスクを最大限の大きさに設定している場合は約7回、RAMディスクを作成していない場合は約4回のディスク交換でバックアップが終了します。

※　新しいフロッピーディスクを作ったら、すぐにラベルを貼ることを習慣にしましょう。そのままにしておくと他のディスクにまぎれてしまい、何のファイルが入ったフロッピーディスクなのか判らなくなります。

<2ドライブの場合>

ドライブが2台あると、バックアップ作業はずっと簡単です。

2ドライブある場合は、MSX-DOS2システムディスクのDISKCOPYコマンドを使います。

始めに複写元のフロッピーディスクを用意して下さい。誤操作によるデータの破壊を防ぐために、書き込み禁止状態にしておいてください。

それからフォーマット済みのフロッピーディスクを用意して下さい。これが複写先のフロッピーディスクとなります。書き込み可能状態にしておくことを忘れないようにして下さい。

まず、MSX-DOS2システムディスクをAドライブに入れ、

```
A>DISKCOPY A: B:
```

と入力します。画面のメッセージにしたがい、Aドライブに複写元のフロッピーディスクを、Bドライブに複写先のフロッピーディスクを入れ、何かキーを押してください。

複写元のフロッピーディスクと複写先のフロッピーディスクのフォーマットが違う場合（一方が1DDフォーマットでもう一方が2DDフォーマットだったなど）は、

```
*** The two disks are incompatible with each other
```

とエラーが表示され、「A>」に戻ります。2DDフォーマットの複写先のフロッピーディスクを用意してやり直してください。

ドライブが動き始め、複写元のフロッピーディスクの内容を複写先のフロッピーディスクにコピーしていきます。2ドライブでは、フロッピーディスクの入れ換えはありません。自動的にAドライブの内容をBドライブにコピーします。

```
Diskcopy finished ok
Copy more disks (Y/N)?
```

と表示されたら、もう1枚バックアップ用ディスクを作りたければ [Y] を、終了したければ [N] を押します。

画面が「A>」にもどったら、コピー終了です。Bドライブからフロッピーディスクを取り出してください。バックアップしたフロッピーディスクにラベル用紙を付けて、「システムディスク」と記入しておきます。

＜本体内蔵の1ドライブに外部ドライブを拡張したとき＞

MSXは、各ドライブ装置を2台分として機能させます。このままでは、外部ドライブを拡張したときに、「A」と「B」、「C」と「D」、計4台のドライブがあるとMSXは判断します。

しかし、MSXに「A」、「B」各1台のドライブであると判断させたい時もあるでしょう。その方法は次のとおりです。

外部ドライブの電源を先に入れたら、CTRLキーを押しながらMSX本体の電源を入れます。そのままVSHELLの画面になるまで、押し続けてください。

［注意］　MSX turbo Rでは、必ず本体内蔵ドライブがBドライブになります。

1.5 インストール

1.5.1 フロッピーディスクへのインストール

フロッピーディスクを作業用のディスクとして使う場合、インストールを行う必要はありません。パッケージに付属している「実行用ディスク」をそのまま使うか、バックアップしたディスクを作業用ディスクにしてください。

1.5.2 ハードディスクへのインストール

MSXViewをハードディスクで使うには、システムディスクの内容を移さなければなりません。

ハードディスクのフォーマットやMSX-DOS2のインストールはMSX用ハードディスクインターフェイスのマニュアルを参照してください。

まず、ハードディスクからMSX-DOSを起動します。

電源を切った状態で、MSXのカートリッジスロットにMSXView漢字ROMカートリッジとハードディスクインターフェイスを挿入します。また、MSXとモニタやプリンタなどとの接続を確認してください。

モニタ、プリンタ、ハードディスクなどの電源を入れてから最後にMSXの電源を入れます。

ハードディスクの読み込みが始まり、しばらくすると「A＞」が表示されます。そうしたら、システムディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。

このときフロッピーディスクドライブのドライブ名は、ハードディスクのパーティションの設定などによって変ってきますが、ここではパーティションは切っていない状態のハードディスク1台（Aドライブ）と、内蔵ドライブ1台（Bドライブ／Cドライブ）という環境を想定して説明します。

Bドライブにシステムディスクを入れ、

```
A>B:
B>CD UTILS
B>KXCOPY  B:¥*.*  A:  /S/E
```

と入力します。

ドライブが動き始め、ハードディスクに書き込まれたファイルの名前を次々に画面に表示していきます。

画面に「B＞」が表示されたらインストール終了です。

1.5.3　環境変数の設定

AUTOEXEC.BATでMSXViewの環境変数を設定することにより、MSXViewのシステムファイルを格納しておくディレクトリを指定することができます。

環境変数には必ずドライブ名（例えば「A:」、「B:」）を付けて、ルートディレクトリからの絶対パスで指定しなければなりません。

環境変数はすべて大文字で指定してください。

環境変数名	設定内容	未設定時の内容
VIEW	ディレクトリ	¥
VIEWBIN	ディレクトリ	環境変数VIEWが設定されていれば、 VIEWで設定したディレクトリの下のBIN。 環境変数VIEWが設定されていなければ¥VIEW¥BIN。
VIEWDA	ディレクトリ	環境変数VIEWが設定されていれば、 VIEWで設定したディレクトリの下のDA。 環境変数VIEWが設定されていなければ¥VIEW¥DA。
VIEWOVL	ディレクトリ	環境変数VIEWが設定されていれば、 VIEWで設定したディレクトリの下のOVL。 環境変数VIEWが設定されていなければ¥VIEW¥OVL。
VIEWFONT	ディレクトリ	環境変数VIEWが設定されていれば、 VIEWで設定したディレクトリの下のFONT。 環境変数VIEWが設定されていなければ¥VIEW¥FONT。
VIEWPD	ディレクトリ	環境変数VIEWが設定されていれば、 VIEWで設定したディレクトリの下のPD。 環境変数VIEWが設定されていなければ¥VIEW¥PD。
TEMP	ディレクトリ	¥TEMP
HOME	ディレクトリ	¥
CLIP	ディレクトリ	¥
VIEWVSHELL	シェルの設定	VSHELL

環境変数名	意味
VIEW	VIEWカーネルを入れておく所
VIEWBIN	VIEWアプリケーションの実行ファイルを入れておく所
VIEWDA	DA（デスクアクセサリ）を入れておく所
VIEWOVL	システムオーバーレイファイルを入れておく所
VIEWFONT	フォントを入れておく所
VIEWPD	プリンタドライバを入れておく所
TEMP	VIEWのアプリケーションの一時作業ファイルを入れておく所 一時作業ファイルはアプリケーションが自動的に作ったり消したりするファイルのこと。
HOME	カレントディレクトリとなる所
CLIP	標準ファイルを入れておく所 標準ファイルとは、VIEWアプリケーションの登録や組込で使われたり作られたりする標準形式のファイルのこと。 CLIPが設定されていなかったら、HOMEに標準ファイルを入れる。さらに、HOMEにも設定されていなかったら¥に入れる。
VIEWVSHELL	MSXViewのシェルを設定する。現在は、VSHELL以外を設定してはいけない。

第2章　MSXViewとは

この章では、MSXViewの基本操作と、ユーザーインターフェイスについて説明します。

2.1　MSXViewとは

パーソナルコンピュータでは、フロッピーディスクに保存されたアプリケーションを使用したりデータを管理するときに、必ずDOS（ディスク・オペレーティング・システム）を使います。MSXでも、「MSX-DOS2」というMSX専用のDOSを使用しています。

しかし、DOSはもともとコンピュータでプログラム開発を専門に行なう人のために作られたものですから、普通の人にはとても難しいものです。MSX-DOS2をスタートしても、画面に、「A>」が表示されるだけです。アプリケーションを起動したり、ファイルのコピーをしたいときには、その度命令をキーボードから入力しなくてはなりません。

これでは、パーソナルコンピュータを利用できるのは、ある程度のコンピュータについての専門知識を持った人か、同じほど勉強した人に限られてしまいます。

また、アプリケーションで入力したデータは、その中でしか利用できませんでした。例えばデーターベースに入力した住所録のデータをワープロで使いたいときには、ワープロの方にもう一度最初から入力しなくてはなりません。これでは2重のデータ入力となり、大変無駄が多い使い方になります。

MSXViewの世界では、難しい英語の命令語を覚えてキーボードから入力する必要はありません。

画面に表示された「アイコン」や「メニュー」を、
マウスの動きに合わせて画面上を動く「マウスカーソル」で
指してコンピュータに指示するだけです。

使い方が簡単になっただけでなく、MSXViewシリーズのアプリケーションは、同じ操作環境で使えます。一つのアプリケーションの使い方をマスターすると、他の種類のアプリケーションもほとんど同じように操作できます。

また、MSXViewシリーズのアプリケーションの間では「登録」、「組込」機能を利用して簡単に共通のデータを使うことができます。

2.2　ユーザーインターフェイスの要素

MSXViewは、ユーザーがコンピュータに命令を与えたり、画面に表示される情報を自由に見られるように、いろいろなユーザーインターフェイスを採用しています。これらは、MSXViewのアプリケーションで共通ですから、ひと通りの使い方をマスターすれば、新しいアプリケーションを使い始めるときでもすぐに操作できるようになります。

2.2.1　マウスとマウスカーソル

マウス（または、キーボード）で、画面上のマウスカーソルを動かしてこれから行ないたい操作を指示するのが、MSXViewのオペレーションの基本です。

1.　マウス

マウスとは動物の「ネズミ」の意味です。一本のコードでコンピュータ本体につながれた姿が似ていることからそう呼ばれています。また、上に付いている2つのボタンにはそれぞれ役割があります。

左ボタン	命令をしたり、ある動作を実行します。
右ボタン	命令をキャンセルしたり、ある動作を中止します。

ボタンの操作には次の3種類があります。

クリック	左右どちらかのボタンを「カチッ」と一度押します。 マニュアル中で特にボタンの指定がなく、単に「クリックします」という表現があるときは、左ボタンのクリックをさします。
ダブルクリック	同じボタン（主に左ボタン）を「カチッ、カチッ」と2度続けてクリックします。
ドラッグ	左ボタンを押したままマウスを移動します。 ドラッグ状態をキャンセルするときは、左ボタンを押したまま右ボタンを押します。

2. マウスカーソル

マウスカーソルは普通矢印の形をしており、マウスを移動するとその動きに合わせて画面の中を移動します。また、その形はアプリケーション中で役割によって変化します。代表的なものを上げておきましょう。

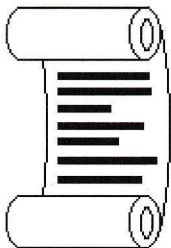
アローカーソル	普通は矢印の形をしています。 命令を選んだり、画面表示を変えたりできます。
クロスカーソル	十文字形をしています。 図形を描いたり、範囲を指定するときにこの形に変わります。
ジョブカーソル	砂時計の形をしています。 フロッピーディスクからデータを読んだり、書き込みをしたりしている間などにこの形に変わります。もとのマウスカーソルに戻るまでは次の指示はできません。

以上のようにマウスカーソルは役目によって形を変え、ユーザーに何をすべきかを教えてくれます。

2.2.2 ウインドウとスクロールバー

1. ウインドウ

アプリケーションで実際に文書を書いたり、グラフィックを描いたりする場所をウインドウ（「窓」の意味）と呼びます。ウインドウの右側にはスクロールバーが付いています。また、アプリケーションによっては、ウィンドウの下側にもスクロールバーが付いています。長い文書や、大きなグラフィックを描いてウインドウに収まりきらないときは、自動的にスクロールします。スクロールしてウインドウから見えなくなったところをもう一度見たいときは、スクロールバーを使います。

2. スクロールバーの操作

スクロールバーを操作するときは、スクロールする方向に注意してください。ウインドウの中は、フイルムリーダーのようにロール状になっていると考えてください。

上下方向のスクロールの場合は、スクロールバーを上方向に操作するとウインドウの中は下方向に、反対に、スクロールバーを下方向に操作するとウインドウの中は上方向に、それぞれ移動していきます。

スクロールバーの両端には三角形の矢印マークがあります。この矢印マークをスクロールアローと呼びます。スクロールしたい方向のスクロールアローにマウスカーソルを重ねて、マウスの左ボタンを押し続けてください。ウインドウの中が少しずつスクロールを始めます。目的の箇所がウインドウ内に表示されたら、マウスボタンを離します。

すばやく目的の箇所を表示したいときは、スクロールバーの中にある白い箱型のスクロールボックスを移動します。マウスカーソルをスクロールボックスに重ねてクリックします。これでスクロールボックスの枠線が移動できます。マウスを移動した方向に枠線が動きますから、目的の位置へ動かしてもう一度クリックしてください。枠線の場所にスクロールボックスは移動し、ウインドウにその位置の内容を表示します。

このように、ウインドウとスクロールバーの組み合わせで、画面には表示しきれない長い文書や大きな図版も、簡単に見られるようになっています。

2.2.3　スライドバー

形状は、スクロールバーに似ていますが、ウィンドウの端ではないところにあるのがこのスライドバーです。

これは、テレビなどのボリュームを調節するように、スピードなどを設定するときに使います。

操作方法はスクロールバーと同じで、スクロールアローをクリックするか、スライドバーの中にある白い箱のスライドボックスを移動して設定します。

2.2.4　メニュー

これまでMSX-DOSやアプリケーションを使うときは、ひとつの操作をする度に長いコマンドをキーボードからタイプしたり、複雑なキーの組み合わせを覚えなくてはなりませんでした。

MSXViewでは、ファイル管理やアプリケーションの操作に必要なコマンドを目的別に一覧で表示し、マウスで選択する方法をとっています。これをメニューと呼びます。ちょうど、レストランのメニューを見ながら料理を注文するように、コマンドを選んでコンピュータに指示を送るわけです。

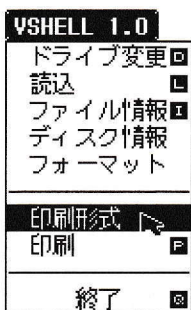
1. メニューバー

メニューはその内容によって分類され、「編集」、「書式」、「道具」といったタイトルが画面上部に横一列に並んで表示されています。これをメニューバーと呼びます。

VSHELL 1.0　View　編集　道具　表示　便利

メニューバーは、左から、「タイトル」、「デスクアクセサリ」、「コマンド」の3つの部分に分かれます。「コマンド」バーの中のメニューの数は、アプリケーションによって変わりますが、操作方法は同じです。

2. メニューの選択

目的のメニュータイトルにマウスカーソルを重ね左ボタンをクリックすると、メニューが開き、タイトルの下にメニュー項目を表示します。この中からひとつを選びます。選ぶまではメニューは開いたままです。

各項目の上にマウスカーソルを移動すると、項目名がリバース表示（黒地に白抜き文字）に変化します。これから行なう命令がリバース表示になったら、マウスの左ボタンをクリックしてください。これで命令が実行されます。もし、中止したいときは、メニュー項目を表示したところで右ボタンをクリックしてください。メニューが閉じます。

3. 選択できないメニュー項目

メニューを開いたときに、メニュー項目の内いくつかが薄い文字になっていることがあります。このとき薄い文字の上にマウスカーソルを移動してもリバース表示に変わりません。これは、現在アプリケーションは、その機能が選択できない状態にあることを示しています。

4. チェックマークのあるメニュー

メニュー項目の左側にチェックマーク（ ✔ ）が付いているものがあります。これは現在その項目が選択されていることを示します。チェックマークを外すには、同じ項目をもう一度選択するか、同じグループから別の項目を選んでください。

5.　キーボードでのメニュー操作

メニューはキーボードでも操作できます。ただし、メニュー項目はメニュータイトルの下ではなく、マウスカーソルがある位置に表示します。

各メニューは、次のキーに割り当てられています。それぞれのキーを押すとメニューが開きます。ただし、一度に複数のメニューは画面に表示できません。

SELECT キー

タイトルメニューを開きます。

STOP キー

デスクアクセサリメニューを開きます。

ESC キー

選択を中止してメニューを閉じます。

F1 ～ F10 キー

コマンドメニューの機能に、左から右に順番に対応しています。
それぞれの機能のメニューを開きます。

メニュー項目の選択は、上下左右のカーソルキーを使います。選択する項目をリバース表示にしたら、リターンキーを押してください。その項目が実行されます。

2.2.5　デスクアクセサリ

デスクアクセサリメニューは、他のメニューと少し違います。このメニューには、いろいろなデスクアクセサリが入っています。

デスクアクセサリとは、仕事をする机の上にあるもので仕事の途中でも使えるもののことです。例えば、画面の調整、単語登録、単語削除があります。

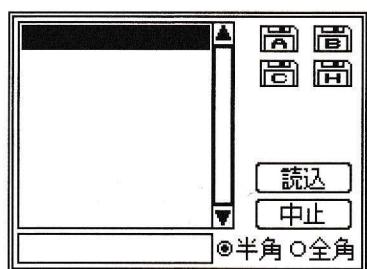
もちろんMSXViewのデスクアクセサリは、どのアプリケーションにいても自由に使えます。文書を書いている途中で単語の登録や削除が簡単にできます。

また、MSXViewの「システム設定」、「プリンタ」も、デスクアクセサリになっています。

2.2.6 ダイアログボックス

メニューから選択できるのは、ひとつの項目・命令に限られます。コンピュータが命令を実行するのに、さらに細かい設定が必要なときには、ダイアログボックス（「ダイアログ」は会話の意味）を通してユーザーに質問をしてきます。

例えばメニューから「印刷形式」を選択すると、どんな用紙サイズかを選ぶダイアログボックスが表示されます。ここで用紙サイズの文字をクリックしてください。その前にある白マルの中に黒点が入り、そのサイズを選択したことを示します。選択が終わったら、「設定」の文字をクリックして選択が終了したことをコンピュータに伝えます（「設定」の文字のように角の丸い四角で囲まれたものは、ボタンと呼びます）。

用紙サイズのように与えられた条件から選択するだけでなく、数値や文字で指定するダイアログボックスもあります。「印刷」ダイアログでは、印刷するページの範囲や部数をキーボードから入力します。

1. ファイルダイアログ

ディスクからデータを読み込んだり、書き込んだりするときは、ファイルダイアログというファイル管理専用のダイアログボックスを表示します。

これにはファイル名を表示するウインドウがあり、その右横にはスクロールバーが付いています。読み込みのときには、ここから目的のファイルを見つけ、書き込みのときには、ファイル名が重なったりしないかどうかをチェックします。

2. アラートダイアログ

細かい設定や選択を求めるダイアログログボックスの他に、メニューから選択した内容を本当に実行するかどうか確認を求めるアラートダイアログボックス（「アラート」は警告の意味）があります。左側に、逆三角形の中に「！」マークが入っているアイコンがアラートアイコンとして付きます。

例えば、ファイルの更新や削除のように、いったん実行すると元に戻すことのできない作業の前に表示されます。

3. エラーダイアログ

アプリケーションを操作しているときにエラーが発生すると、その内容を伝えてくれるものに、エラーダイアログがあります。エラーダイアログは、エラーの発生原因を表示します。左側に、円の中に斜線が入っているアイコンがエラーアイコンとして付きます。

エラーが発生したときの対応については、「付録　エラーメッセージ一覧表」を参照してください。

2.2.7 アイコン

アイコンはその形で内容を表現するもので、VSHELLでファイルを管理するときに使います。ファイル名だけでは、アプリケーション、MSXViewシステム、データの区別がつきません。アイコンを利用してファイルのグループ分けをしておくと、一目で分かるようになります。

また、アイコンの形はユーザーが自由に変更できます。

第3章　MSXViewを実際に使ってみましょう

3.1　起動と終了

3.1.1　起動するとき

起動方法には大きく分けて次の2種類があります。

A. コンピュータの電源を入れるとMSXViewが起動する。

B. DOSを起動し、コマンドを入れて起動する。

A.　電源オン

コンピュータに電源を入れる前に、次の点をチェックしましょう。

- MSXView漢字ROMカートリッジは、カートリッジスロットに取り付けてありますか？
- モニタやプリンタとの接続はしてありますか？　電源を入れてから、ケーブルの抜き差しをしないでください。故障の原因になることもあります。
- マウスは、ジョイスティック1につなぎます。

(1)　モニタ、プリンタ、外部ドライブなど周辺機器の電源を先に入れます。

(2)　MSXView実行用ディスクのライトプロテクト（書き込み禁止）タブを下げて、窓がふさがった状態（書き込み可能）にしてください。フロッピーディスクをAドライブに入れて、MSX本体の電源を入れます。

(3)　ディスクの読み込みが始まり、しばらくするとVSHELLの画面が表示されます。

起動しただけではマウスを使えません。マウスの設定を行なうまでは、キーボードで操作します。（→　3.1.3　マウスを使う）

B.　コマンド入力

```
A>VIEW
```

と入力すると、VSHELLを起動します。

このとき、画面が漢字モードになっていないかどうか確認してください。

MSXViewは漢字モードから起動することができません。また、1度でも漢字モードにしたら起動できません、。リセットをし、ANKモードでMSXViewを起動してください。

MSXViewを終了させてDOSに戻ってしまったが、もう1度起動したいというときなど、コマンド入力によりMSXViewを起動します。

MSXViewコマンドの引数としてドライブ名付きフルパスのプログラム名を指定することにより、そのプログラムをVSHELLを介さず直接起動することができます。また、プログラム名の後ろにデータ名を指定すると、そのデータが自動的に読み込まれます。

以下は実際の動作の流れです。

```
A>VIEW ［ドライブ名：フルパスのプログラム名］［ドライブ名：フルパスのデータ名］
```

(1)　・［　］を指定した場合
　指定したプログラムを実行します。プログラムを終了したら（2）へ。
・［　］を指定しなかった場合
　（2）へ。

(2)　・環境変数VIEWSHELLが設定されていた場合
　VIEWSHELLで設定しているシェルを起動します。
・環境変数VIEWSHELLが設定されていなかった場合
　環境変数VIEWで設定されたディレクトリにあるVSHELL.)VSを実行します。

3.1.2　終了するとき

MSXViewは、ひんぱんにディスクをアクセスして操作に必要なプログラムやデータを読み書きしながら仕事をします。途中で電源を切ったり、リセットボタンを押したりすると、必要なデータが保存されないばかりか、最悪の場合システムディスクを壊す原因にもなります。

また、タイトルメニューの「印刷形式」、DA（デスクアクセサリ）の「システム設定」、「プリンタ」、「画面調整」は、MSXViewを終了するときに設定した内容をディスクに保存しますので、下記のようにMSXViewを終了しないとせっかく設定した内容が保存されません。必ず正しい手順を守って終了してください。

(1)　SELECT キーを押して、タイトルメニューを開きます。
(2)　上下方向のカーソルキー（ ↑ 、 ↓ ）を押して、「終了」をリバース表示にします。
(3)　リターンキーを押して、「終了」を実行します。

(4) 終了を確認するダイアログボックスが表示されます。左右のカーソルキー（ ← 、 → ）を押して、「はい」をリバース表示にします。
(5) リターンキーを押します。

VSHELLの画面が消え、しばらくするとMSX-DOS2の画面に変わります（「A>」が表示されます）。フロッピーディスクを取り出してから、電源を切ります。
もう一度MSXViewを起動するときは、「A>」のところで、「VIEW」と入力してリターンキーを押してください。VSHELLの画面にもどります。

3.1.3 マウスを使う

マウスは、一番最初にMSXViewを起動したときは使えません。「システム設定」を変えて、マウスが使えるようにしてください。その前にジョイスティック1にマウスを接続しておいてください。

(1) VSHELLの画面を表示してください。
(2) STOP キーを押して、デスクアクセサリメニューを開きます。
(3) 上下左右方向のカーソルキー（ ↑ 、 ↓ 、 ← 、 → ）を使って、「システム設定」をリバース表示にしたら、リターンキーを押します。
(4) 「システム設定」メニューに変わります。 GRAPH キーを押しながらカーソルキーを使って「マウス」の部分にカーソルを移動して GRAPH + SELECT で選択し、リターンキーを押してください。

マウスをいろんな方向に動かしてみてください。画面上の矢印（マウスカーソル）が、マウスの動きに合わせて移動します。以降、VSHELLをスタートしたときから自動的にマウスが使えるようになります。

1. マウスをテストしてみましょう。

「コマンド」バーの「編集」にマウスカーソルを合わせ、左ボタンをクリックします。編集メニューを開けます。
マウスカーソルをメニュー項目の上を移動させると、項目名がリバース表示になります。マウスの右ボタンを押せば、メニューが閉じます。

2. マウスの操作

左ボタン　メニューやダイアログボックスから項目を選択したり、ある範囲を選択します。
右ボタン　メニューやダイアログボックスを閉じます。

ボタンの操作には次の3種類があります。

クリック　　　左右どちらかのボタンを「カチッ」と一度押します。マニュアル中で特にボタンの指定がなく、単に「クリックします」という表現があるときは、左ボタンのクリックをさします。

ダブルクリック　同じボタンを「カチッ、カチッ」と2度続けてクリックします。マニュアル中で特にボタンの指定がなく、単に「ダブルクリックします」という表現があるときは、左ボタンのダブルクリックをさします。

ドラッグ　　　左ボタンを押したままマウスを移動します。
ドラッグ状態をキャンセルするときは、左ボタンを押したまま右ボタンを押します。

3.1.4　キーボードを使う

入力装置としてマウスを設定しても、キーボードから操作できます。

最初のころはマウス中心の操作になりますが、MSXViewの操作に慣れたら、キーボードとマウスを使い分けると、スピーディーに仕事が進みます。

［注意］キーボードの操作は、各アプリケーションにより多少変化します。

○キーボードの操作

ファンクションキー（F1 ～ F10）

「コマンド」バーの機能の左から順に対応しています。
各ファンクションキーを押すと対応するメニューが開きます。マウス操作で、マウスカーソルをメニュータイトルに合わせてクリックするのと同じです。

ESC キー

選択したファンクションをキャンセルします。
マウス操作の右ボタンクリックと同じです。

STOP キー

デスクアクセサリメニューを開きます。

GRAPH + STOP キー

マウスの右ボタンクリックと同じです。

SELECT キー

タイトルメニューを開きます。

GRAPH + SELECT キー

マウスの左ボタンクリックと同じです。

カーソルキー

メニューから項目名を選択します。
また、GRAPH キーを押したままカーソルキーを押すと、マウス操作でメニュー項目の上を移動するのと同じように、マウスカーソルをキーボードでコントロールできます。

リターンキー

選択・実行をします。
メニュー項目の選択では、マウス操作の左ボタンクリックと同じです。

GRAPH キー

GRAPH キーは、他のキーと組み合わせて使い、メニューの選択から実行までを一度に行なえます。
メニューの中には、薄くリバース表示されたアルファベットや記号1文字の付いているものがあります。これは、「ショートカット」キーと呼ばれ、GRAPH キーを押したままそのキーを押すと、メニューを開かなくても実行できるキー操作です。

[注意] 各メニューに割り当てられたコマンドは、各アプリケーションによって変わります。各アプリケーションのマニュアルを参照してください。

3.3 文字入力

3.3.1 日本語入力

MSXViewの日本語入力には、ひらがな、カタカナ、英字、漢字の4種類があります。入力は CAPS キーと かな キーの組み合わせにより、すべてキーボードから入力します。

文字入力中は、カーソル（点滅している四角形）のある位置から入力が始まります。文章の途中にカーソルを移動して入力すると、自動的に文字が挿入され、カーソル位置から右側にあった文章は、後ろに送られていきます。これを「インサート（挿入）モード」と呼びます。

かな入力には、ひらがなを直接タイプする「かな入力」とアルファベットを入力する「ローマ字」入力があります。かなキーボードになれているなら、「かな入力」で、英文タイプライタの配列に慣れているなら、「ローマ字」で入力します。それぞれの設定方法については、「5.1　システム設定」を参照してください。

いずれの場合も、かな キーがロックされた状態で日本語入力が可能になります。かな キーを押してインジケータ（ランプ）を点灯させてください。

1.　「ViewTED」の起動

これから説明する内容を実際に試すときは、付属のMSXViewアプリケーション、「ViewTED」を使います。「ViewTED」は、簡易日本語ワープロとしても使える、文字入力専用のアプリケーションです。

(1)　「道具」コマンドバーをクリックします。
MSXViewで動作可能な各ソフトが表示されます。

(2)　「TED」をクリックします。
「VSHELL」の画面が消え「ViewTED」の画面が起動し、編集画面が表示されます。

(3)　「サイズ」コマンドバーをクリック。
入力した文字を読みやすくするために、「16×16」をクリックします。

これで、キーボードから文字を入力すると、画面に表示されます。

○「ViewTED」の終了

練習が終わったら、「ViewTED」を終了して、VSHELLの画面に戻ります。

(1)　一番左のタイトルメニューから、「終了」を選びます。

(2)　「終了しますか」には、「はい」を選択します。「いいえ」を選択すると、終了せずに入力を続けることができます。

(3)　VSHELLの画面に戻ります。

3.3.2　ひらがな／カタカナの入力

1.　ひらがなの入力

(1)　[CAPS] キーのロックが解除してあることを確認してください。
[CAPS] キーのインジケータが消えている状態です。

(2)　キーをタイプします。
「かな入力」であれば、直接ひらがなが画面にリバース表示されます。
「ローマ字入力」のときは、まず最初にタイプした文字はアルファベットで表示され、次の文字をタイプした瞬間に、リバース表示のひらがなに変わります。
リバース表示の「ひらがな」は、漢字への変換前や、確定前の状態を表します。

(3)　リターンキーを押すと、通常の表示に戻ります。これで、入力した文字を確定したことになります。カーソルが最後の文字の右側で点滅します。

2. カタカナの入力

(1) CAPS キーを押してください。インジケータが点灯します。

(2) キーをタイプします。
「かな入力」であれば、直接カタカナが画面にリバース表示されます。
「ローマ字入力」のときは、まず最初にタイプした文字はアルファベットで表示され、次の文字をタイプした瞬間に、リバース表示のカタカナに変わります。

(3) リターンキーを押すと、通常の表示に戻ります。これで、入力した文字を確定したことになります。カーソルが最後の文字の右側で点滅します。

[注意] ローマ字入力の場合、CAPS キーをロックしなくても、SHIFT キーを押しながら入力すると、カタカナを入力することができます。

3.3.3 ひらがな／カタカナの切り替え

ひらがなで入力した文字をカタカナへ変換したり、カタカナで入力した文字をひらがなに変換することができます。

1. ひらがな←→カタカナ

ひらがな、カタカナ相互に変換するには、TAB キーを使います。また、CTRL キーと組み合わせてのキー操作でも変換できます。

(1) ひらがなで入力した文字がリバース状態のときに、TAB キーを押すと、カタカナに変わります。もう一度、TAB キーを押すと、ひらがなにもどります。カタカナで入力した文字のときは、ひらがなに変わります。

(2) 変換が終わったら、リターンキーを押して決定します。

[注意] 入力した文字を変換できるのは、文字がリバース表示になっている間だけです。

2. ひらがな→カタカナ

(1) ひらがなで入力します。入力した文字はリバース表示になります。

(2) CTRL + I キーを押してください。

リバース表示の文字がカタカナに変換されます。

3. カタカナ→ひらがな

(1) カタカナで文字入力します。入力した文字はリバース表示になります。

(2) [CTRL] + [U] キーを押してください。
リバース表示の文字がひらがなに変換されます。

3.3.4 漢字変換

入力したひらがなやカタカナを漢字に変換するには、漢字の読みを入力し、スペースキーを押します。

漢字変換は、文章の最小単位となる文節ごとに行なわれます。これを文節変換と呼んでいます。MSXViewが対応している日本語フロントエンドプロセッサのMSX-JEでは、漢字変換の効率を良くするために、いくつかの文節を同時に入力して漢字かな混じり文に変換する、連文節変換を採用しています。

入力した文字を漢字かな混じり文に確定していくときは、文節単位で文字を決めていきます。スペースキーを押して変換すると、まず最初の文節がリバース表示になり、残りの文字にはアンダーラインが付きます。

文節ごとの確定は、下方向のカーソルキー（[↓]）を使います。[↓] キーを一度押すとリバース表示だった文節が確定され、次の文節がリバース表示に変わります。アンダーラインの表示がなくなるまで、この動作を続けます。

[↓] キーの変わりに [CTRL] + [N] キーを押しても同じ動作をします。

MSX-JEの漢字変換には学習機能があり、変換する漢字（語句）に優先順位を付けていきます。前回使用した漢字は記憶され、次に同じ読みが入力されたときに、第一候補として表示します。よく使う文字は、いつも最初に表示されるようになるわけです。

［注意］内部処理の都合により、すべての文字を学習するわけではありません。

1. 漢字変換の手順

では、実際に漢字変換をやってみましょう。

(1) 文章を入力します。入力した文字はリバース表示になります。

ViewTED 1.0 | View | 編集　サイズ　検索　道具
かぶしきがいしゃあすきー

(2) スペースキーを押して、漢字かな混じり文に変換します。

ViewTED 1.0 | View | 編集　サイズ　検索　道具
株式会社アスキー

すべて正しい文字に変換されたなら、リターンキーを押して確定し、続きの文章を入力してください。
変換の一部が違うときは、以下の操作で正しい変換に修正していきます。

(3) 正しく変換が行なわれた文節は、［↓］キーを押して確定します。
(4) 変換が違っている文節では、スペースバーを押してください。押す度に同音異議語が表示されますから、正しい変換になるまで、繰り返しスペースキーを押してください。
(5) アンダーラインの部分がなくなるまで、(3)、(4)の操作を行ないます。

［注意］文節の読みに対する漢字（語句）がなくなると、文節を短くして再び変換を行ないます。正しい漢字（語句）が表示されないときは、読みを変えて変換してみてください。

2. 文節の区切りが正しくないとき

文節の区切りが正しくないと、誤った漢字（語句）に変換されてしまいます。リバース表示になった文節が違っているときは、文節の切り直しを行ないます。
切り直しは、カーソルキー（［←］、［→］）を使います。

［←］ リバース表示の文節を一文字ずつ左にずらし、文節を短くします。
［CTRL］+［K］、または［CTRL］+［S］キーを押しても同じ動作をします。

［→］ リバース表示の文節を一文字ずつ右にずらし、文節をのばします。
［CTRL］+［D］、または［CTRL］+［L］キーを押しても同じ動作をします。

(1) 文章を入力し、スペースキーを押して漢字変換を行ないます。
(2) 先頭から変換の正しい部分は確定し、文節が正しくない部分まで［↓］キーを押して移動します。
(3) カーソルキー（［←］、［→］）を使って、文節の区切りを直してください。
(4) スペースキーを押して変換をやり直します。

3.3.5　文字の修正

文章の入力中に間違いに気が付いたときと、リターンキーを押して入力を確定した後で間違いに気が付いたときとでは、修正方法が異なります。

入力途中での修正には BS （バックスペース）キーのみを使います。

確定後の修正では BS （バックスペース）キーと DEL （デリート）キーの両方を使って、間違った文字を削除し、もう一度入力します。

1. BS キーでの修正

カーソルの直前にある文字を削除します。

(1) カーソルキーを使って、削除したい文字の後（右側の文字）にカーソルを移動します。
(2) BS キーを押してください。カーソルの左側にあった文字が削除され、右側にあった文章が詰まります。

2. DEL キーでの修正

カーソルの位置にある文字を削除します。

(1) カーソルキーを使って、削除したい文字にカーソルを重ねます。
(2) DEL キーを押してください。カーソル位置にあった文字が削除され、右側にあった文章が詰まります。

3. 文字の挿入

文字、文章を挿入します。入力した文字は、カーソル位置の左側に表示されます。

(1) 文字を挿入する位置の右側の文字にカーソルを移動します。
(2) 文字、文章を入力し、漢字かな混じり文に変換してください。カーソル位置の左側に挿入されます。

3.3.6 記号／外字の入力

キーボードにはない記号や、読み方の分からない文字や外字を入力します。
記号入力は、漢字ROMに登録されているすべての文字を取り出せます。

1. 記号入力ウィンドウ

記号や外字の入力には、記号入力ウィンドウを使います。

(1) CTRL + @ キーを押して、記号入力ウィンドウを開きます。

文字表示部　ここに表示されるものから、入力したい文字を選びます。
選択する文字にマウスカーソルを合わせてクリックします。

表示変更部　文字表示部の内容を変更します。

・次候補　10文字単位で文字コードの大きい方へ文字表示を変えます。
・前候補　10文字単位で文字コードの小さい方へ文字表示を変えます。
・早送り　文字の種類別（記号、英数字、ひらがな、カタカナ、ギリシャ文字、ロシア文字、外字、第一水準、第二水準の順）に文字表示を変えます。
・後戻し　早送りとは逆の順序で文字の種類別に文字表示を変えます。
・コード表示　カーソルのある文字のコード番号を表示します。

コード変更　MSXViewで扱えるのは、JISコードとシフトJISコードの2種類の文字コードです。用途に応じて使い分けてください。

(2) 表示変更部を使い、入力したい文字を表示します。
(3) マウスカーソルで入力したい文字を選び、クリックしてください。文字がリバース表示に変わります。
(4) 「入力」をクリックすると、文字がカーソル位置に表示されます。

2. 記号の再入力

記号入力ウィンドウを使って入力した文字は、新たに記号入力を行なうまで記憶されています。ですから、同じ文字を続けて使用するときは、簡単なキー操作で入力できます。

(1) 記号入力ウィンドウから、入力したい文字を取り出します。
(2) 次におなじ記号を入力したい所で、右の SHIFT キーの隣にあるキー（ _ キー）を押してください。(1) で取り出した文字が表示されます。

3.3.7 英数文字入力

1. 半角文字と全角文字の違い

これまで入力した文字は、すべて全角文字です。ひらがな、カタカナ、漢字はすべて同じ大きさでした。しかし、英数文字やカタカナには半角文字もあります。例えば、フロッピーディスクのフォーマットやバックアップのときにタイプしたコマンドなど、MSX-DOSで使う英数文字は、すべてこの半角文字です。

MSXViewアプリケーションでは、全角文字、半角文字、両方が使えます。用途に応じて使い分けてください。

[注意] ひらがなや漢字の半角文字はありません。ひらがなを半角文字に変換するとカタカナに変換されます。

2. 全角英数文字の入力

アルファベットは、大文字と小文字の2種類があります。どちらを入力するかは、 CAPS キーをロックしているかどうかで決まります。

・英大文字の入力

(1) かな キーのロックを解除します。 かな キーのインジケータの消灯を確認してください。
(2) CAPS キーをロックします。 CAPS キーのインジケータが点灯します。
(3) 文字を入力すると、すべて英大文字になります。
(4) リターンキーを押して、入力した文字を確定します。

・英小文字の入力

(1) かな キーのロックを解除します。 かな キーのインジケータの消灯を確認してください。
(2) CAPS キーのロックを解除します。 CAPS キーのインジケータが消灯します。
(3) 文字を入力すると、すべて英小文字になります。また、この状態で SHIFT キーを押しながら入力すると、英大文字になります。
(4) リターンキーを押して、入力した文字を確定します。

3. 半角英数文字の入力

半角英数文字の入力は、全角で入力した英数文字を半角文字に変換して行ないます。半角に変換できるのは、入力直後のリバース表示となっている文字だけです。

(1) 全角英数文字で入力。入力した文字は、リバース表示になっています。
(2) SHIFT ＋ TAB キー（または CTRL ＋ O ）を押してください。リバース表示の文字が、半角文字に変わります。

○英数文字変換

ローマ字で入力した文字であれば、キー操作で全角の英数文字に変換できます。設定を英文字入力に切り替える必要はありません。

(1) ローマ字入力で文字を入力します。入力された文字は、ひらがなのリバース表示になります。
(2) CTRL ＋ P キーを押してください。リバース表示のひらがなが、全角英数文字に変わります。
さらに半角英数文字に変換したいときは、英数文字変換の後で、半角変換のキー操作（ CTRL ＋ O キーを押す）を行なってください。

3.3.8 単語登録／削除

入力した文字を、どれだけ正確に漢字かな混じり文に変換できるかは、辞書がどれだけ単語情報を持っているかによります。

例えば、医療用語や法律用語などは、一般的な単語ではありませんから、そのままの読みで変換することはできません。このような単語は、一度デスクアクセサリの「単語登録」を使って登録します。そうしておけば、次回からは普通の単語と同じように変換できるようになります。また、不要になれば削除もできます。

単語登録／削除の使い方については、「5.4　単語登録／削除」を参照してください。

3.3.9　外字作成

単語登録で新しい語句を登録したように、新しい文字を登録するのが、この「外字作成」です。

MSXViewには、JIS規格で決められた第一水準、第二水準、合わせて約6300文字の漢字と、ひらがな、カタカナ、記号など500文字の非漢字文字が登録してあります。しかし、会社のマークやロゴ、また特種な漢字などは新たに作成して登録することになります。このように新しく制作する文字のことを「外字」と呼びます。

MSXViewでは64文字までの外字を登録できます。外字は記号入力によって取り出します。

外字作成の使い方については、「5.5　外字作成」を参照してください。

第4章　VSHELLとは

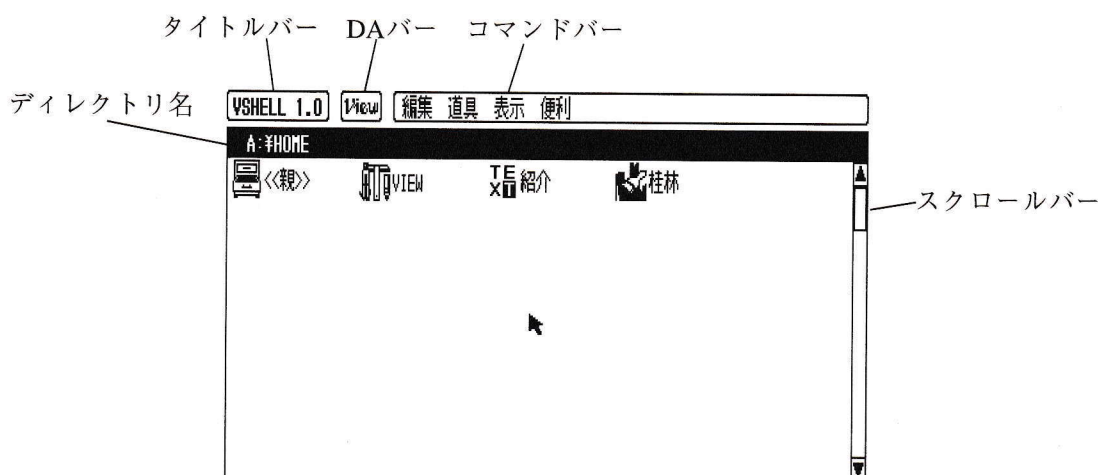
4.1　VSHELLとは

VSHELLは、MSXViewを立ち上げたときに最初に起動するアプリケーションです。MSXViewの終了もVSHELLで行ないます。

ファイルやディレクトリの「複製」、「削除」、「移動」などのファイル管理や他のMSXViewアプリケーションを起動することができます。

DOS上ではとかく煩雑になりがちなファイル管理を、アイコンを使って視覚的にファイルの種別を行なうことができます。

4.2　VSHELL各部の名称

VSHELLの画面を見てください。

画面の一番上に、箱が3つ表示されています。これはメニューバーといい、さまざまなコマンドが収められています。

その下の黒い箱の白い文字は、左側が現在のドライブ名とディレクトリ名で、右側が現在のディスクのボリューム名です。ボリューム名が設定されていないときは、右側には何も表示しません。

さらにその下には、現在のディレクトリにあるファイルが表示されています。

表示できるファイルの最大数は120個です。120個を越えた分については表示されているファイルが消去または移動された後で、そのディレクトリに再度移動してきたときに表示されます。

4.2.1　メニューバー

VSHELLで使用するコマンドが種類別に収められています。

1. タイトルメニュー
ドライブ変更、印刷、VSHELLの終了などのコマンドがあります。
また、メニュータイトル欄に現在使用中のアプリケーション名を表示します。

2. デスクアクセサリメニュー
デスクアクセサリとは、現在実行しているアプリケーションを終了することなく使えるミニアプリケーションのことです。画面設定、単語登録、単語削除などがあります。

3. 編集メニュー
ファイルの名前を変えたり、移動、削除するなど、ディスク上のファイルを編集するためのコマンドがあります。他のMSXViewアプリケーションでは、ここにテキストやグラフィックスを編集するためのコマンドが入ります。

4. 道具メニュー
使用するMSXViewアプリケーションを選びます。このパッケージのシステムディスクには、次のアプリケーションが入っています。

・ViewDRAW　　図形を描いたり、図表を作成する。
・ViewTED　　簡易日本語ワープロとしても使えるテキストエディタ。
・ViewPAINT　　ドット単位で図形を描くグラフィックエディタ。
・PageBOOK　　MSXView上で電子的な「本」を作成し、利用する。

[注意] 他のMSXViewアプリケーションをシステムディスクに追加すると、このメニューに自動的に加わります。

5. 表示メニュー
ファイルの表示方法を変更するためのコマンドが入っています。

6. 便利メニュー
ボリューム名を設定／変更したり、オリジナルのアイコンを作る機能など便利なコマンドが入っています。

4.2.2 ディレクトリ／ボリューム名

白抜き文字で、左側に現在のドライブ名とディレクトリ名を、右側に現在のディスクのボリューム名を表示します。

ディレクトリ名が長すぎて表示しきれない場合は、表示できるディレクトリまでしかディレクトリの移動はできません。

ボリューム名が設定されていない場合は、右側には何も表示しません。

4.2.3 ファイル名

ディスクに保存されているファイル名を表示します。最初にVSHELLをスタートしたときは、カレントディレクトリの内容が表示されます。

このファイルの表示方法には大きく分けて2種類あります。

1. ファイル名の頭にアイコンをつけて表示します。このとき拡張子は表示しません。
2. MSX-DOSのDIRコマンドのように、拡張子つきのファイル名、そのファイルのサイズと作成した年月日を1行に表示します。

※ 拡張子とは、ファイル名のうちの「.」から後ろの部分のことです。主にファイルの性質などを表わすのに使われます。ファイル名の一部なので適当に付けることもできますが、通常は一定の約束事に従ったものになります。例えば、MSX-DOSでは「.COM」「.BAT」「.SYS」といった拡張子はプログラムやバッチのために予約されているので、本来の目的以外のファイルに使うとトラブルのもとになります。

アイコン付きのファイル表示は、一目でファイルの種類が分かるばかりでなく、ファイルを好きな位置に置くことができますので、ファイル管理に適しています。

ファイルの表示位置の移動は、ドラッグで行います。ファイル名の上にマウスカーソルをあわせてマウスの左ボタンを押すとそのファイルがリバース表示されるので、ボタンを押したままマウスを移動します。ファイルを置きたい位置までカーソルを移動したら、ボタンを離します。ドラッグ状態をキャンセルするときは、左ボタンを押したまま右ボタンをおします。

4.3 ファイル選択とファイル解除

「読込」、「削除」、「複製」、「移動」などほとんどのコマンドは、あらかじめ操作の対象となるファイルを選択（リバース表示に）しておかなければなりません。

また、間違えて違うファイルを選択してしまったとき、リバース状態を解除しなければなりません。

この「ファイル選択」と「ファイル解除」には、それぞれ数種類のやり方があります。

4.3.1 ファイル選択

1. 左ボタンをクリック
   選択するファイル名の上にマウスカーソルを置いて、左ボタンをクリックします。
   複数のファイルを選択するときは、これを繰り返します。

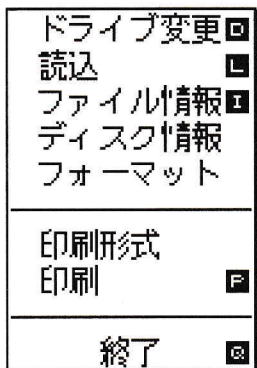
2. 全選択
   編集メニューの「全選択」を選ぶと現在のディレクトリにある全部のファイル選択します。

4.3.2 ファイル解除

1. 左ボタンをクリック
   選択状態になっているファイル名の上にマウスカーソルを置いて、左ボタンをクリックします。
   複数のファイルを解除するときは、これを繰り返します。

2. 右ボタンをクリック
   右ボタンをクリックすると、マウスカーソルの位置に関係なく、最後に選択したファイルを解除します。複数のファイルを選択しているときに、右ボタンを複数クリックすると、最後に選択したファイルから順に解除します。

3. 全解除
   編集メニューの「全解除」を選ぶと現在のディレクトリにある全ての選択されているファイル解除します。

4.4 タイトルメニュー

4.4.1 ドライブ変更

ドライブを切り替えます。

タイトルメニューから「ドライブ変更」を選んでください。

現在使えるドライブを表示します。変更したいドライブ名をクリックするとカレントドライブを変更します。チェックマークが付いているのが、現在のカレントドライブです。

フロッピーディスクを入れ換えるときは、必ずディスク交換のメッセージが表示されてから入れ換えてください。

4.4.2 読込

アプリケーションの起動、ディレクトリの移動などを行います。これらはダブルクリックでも同じ結果になります。

編集したいファイルまたはディレクトリをクリックしてリバース表示にしたら、タイトルメニューから「読込」を選びます。複数のファイルを選択した状態で「読込」を選んだ場合、最後に選択したファイルだけを読み込みます。

1. データの読込
   あらかじめ選択しておいたのがアプリケーションのデータファイルだったら、データファイルを読み込み、そのデータを処理するアプリケーションをスタートします。
   VSHELLの「読込」を使えば、指定したファイルを読み込むと同時に、そのファイルを制作したアプリケーションを自動的に起動しますから、一度の操作ですぐに編集作業が始められます。

2. アプリケーションの読込
   アプリケーションプログラムだったら、そのアプリケーションをスタートします。これは、道具メニューからアプリケーションを選択したのと同じ結果になります。

3. ディレクトリの読込（移動）
   選択したのがディレクトリだったら、そのディレクトリに移動します。

※ ディレクトリの移動は、「読込」でもできますが、「複製」、「移動」では「読込」によるディレクトリ移動はできないので、普段からダブルクリックでディレクトリを移動するようにしてください。

4.4.3　ファイル情報

VIEW.DRW
作成日　1990/11/11　16:37
サイズ　3402
種別　書類
使用道具　DRAW.)DR
確認

ファイルの履歴を調べます。

どのアプリケーションのファイルか知りたいときや、作成日時を知りたいときなどに使います。

履歴を知りたいファイルを選択したら、タイトルメニューから「ファイル情報」を選んでください。次の内容が表示されます。

作成日	指定したファイルを作成した日付と時刻を表示します。この日付は、MSXの内蔵クロックから取ったものです。
サイズ	ファイル容量をバイト単位で表示します。
種別	ファイルの種類を表示します。ファイル名から内容が分からないときは、これを見てください。以下の種類があります。

システム	MSXViewを動かすのに必要なシステムファイルです。
オーバーレイ	アプリケーションが特定の機能を実行するときに必要なプログラムの一部です。
道具	「ViewDRAW」や「ViewTED」などのMSXViewアプリケーションです。
デスクアクセサリ	「システム設定」、「単語登録」などのデスクアクセサリです。
デスクアクセサリデータ	「デスクアクセサリ」のデータファイルです。
フォント	MSXViewアプリケーションで選択できる、さまざまな書体を収めたファイルです。
標準ファイル	MSXViewアプリケーション間で、データをやり取りするための、共通ファイルフォーマットで作られたファイルです。
プリンタドライバ	各種プリンタを使用するためのプリンタドライバです。
MSXDOSシステム	MSX-DOSのシステムファイルです。
MSXDOSコマンド	MSX-DOS上で動作するコマンドです。
書類	上記以外の全てのファイルです。

使用道具	MSXViewアプリケーションで作成されたデータファイルの場合は、各アプリケーション名を表示します。その他のファイルの場合は、何も表示しません。

1つのファイルを選択していた場合、ファイル情報の表示を終了させるときは「確認」をクリックします。

複数のファイルを選択していた場合、選択した順にファイル情報を表示します。次のファイル情報を見たいときは、「確認」をクリックしてください。途中でファイル情報の表示を終了させるときは、「中止」をクリックしてください。最後に選択したファイル情報の表示を終了させるときは「確認」をクリックしてください。

4.4.4　ディスク情報

ディスク情報
ドライブ　B
ボリューム名
全容量　730112
使用容量　80896
残り容量　649216
確認

現在使用しているディスクのファイル数や残り容量を知ることができます。

タイトルメニューから「ディスク情報」を選んでください。次の内容が表示されます。

ドライブ名	指定しているドライブ名を表示します。
ボリューム名	現在のディスクのボリューム名を表示します。
全容量	現在のディスクの全容量を表示します。
使用容量	現在ディスクにあるファイルの合計容量をバイト単位で表示します。
残り容量	ディスクの全容量から、現在の使用容量を引いた値をバイト単位で表示します。残り容量が少なくなったら、新しいディスクを用意するか、余分なファイルを別のディスクにコピーしてから削除するなどして、容量不足エラーが起きないよう注意しましょう。

※　3.5インチ2DDフロッピーの最大使用容量は、約720000バイトです。

4.4.5　フォーマット

ディスクフォーマット(B)
1 1 - 1 side, double track
2 2 - 2 sides,double track
3
4
5
6
7
8

購入したばかりのフロッピーディスクをMSXViewで使えるように、初期化（イニシャライズ）します。すでに使用したフロッピーディスクの内容を消去し、新たにデータディスクにすることもできますが、大切なデータが入っていても、全部のファイルを消してしまいまから、フォーマットする前に内容をチェックしてください。

タイトルメニューから「フォーマット」を選んでください。ダイアログボックスが開きますので、その中からフォーマットするフロッピーディスクの種類を番号で選び、Bドライブにフロッピーディスクを入れます。

1DDのフロッピーディスクなら、「1 - single side, double track」
2DDのフロッピーディスクなら、「2 - double sides,double track」

数字をクリックするか、キーボードの数字キーを押してください。

※　ドライブとの組合わせにより選択表示の内容が異なることもあります。

フォーマット作業を確認するメッセージが表示されます。中止するなら「いいえ」を、フォーマットを実行するなら「はい」を選んでください。
フォーマットが終了したら、右ボタンをクリックしてダイアログボックスを閉じます。
ハードディスクのフォーマットは、VSHELLではできません。ハードディスクインターフェイスに付属しているフォーマットプログラムをご利用ください。

4.4.6 印刷形式

MSXViewアプリケーションで作成したデータファイルなら、VSHELL上から直接印刷を実行できますが、その前に印刷形式を設定しておかなくてはいけません。
タイトルメニューから「印刷形式」を選んでください。ダイアログボックスが開きます。

印刷する用紙の大きさを選びます。各サイズの前にある「○」印をクリックすると、中に黒丸が入ります。また、同じように「連続紙」、「カット紙」の一方を選びます。
選択が終わったら、「設定」をクリックして、ダイアログボックスを閉じます。
設定した印刷形式はVSHELLを終了するときに、ディスクに保存されますので、スタートする度に再設定する必要はありません。新たに設定するまで有効です。

[注意] 印刷を実行する前にデスクアクセサリの「プリンタ」を使ってプリンタドライバを指定しておいてください。

4.4.7 印刷

MSXViewアプリケーションで作成したデータファイルなら、VSHELL上で直接ファイルを指定して印刷できます。「読込」は、編集作業のために、データファイルを読み込んでアプリケーションを自動的に起動しましたが、「印刷」では印刷までを自動的に行ないます。

VSHEL上で印刷したいデータファイルを指定してリバース表示します。タイトルメニューから「印刷」を選んでください。

複数のファイルを選択して「印刷」を選んだ場合、最後に選択したファイルを印刷します。

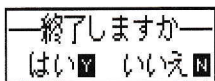
［注意］MSXViewアプリケーション以外で作成したデータファイルは、この機能を使えません。

4.4.8 終了

MSXViewを終了し、MSX-DOSにもどります。

終了しますか
はい Y　いいえ N

タイトルメニューから、「終了」を選んでください。

「終了」を選択すると、終了してもよいかどうかを確認するダイアログボックスを表示します。

「はい」を選択すると、MSXViewを終了しMSX-DOSにもどります。「いいえ」を選択するとVSHELLの画面にもどります。

4.5 編集メニュー

4.5.1 新規ディレクトリ

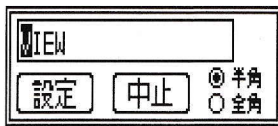
新しくディレクトリを作ります。

新しく作られたディレクトリ名は、システムが決めます。最初に付けるディレクトリ名は、「BLANK_A」です。これが既にある場合は、「BLANK_B」になります。これもある場合は、「BLANK_C」という様に最後の一文字がアルファベット順に変わります。「BLANK_Z」まで作ってしまった場合、それ以上作ることはできません。

編集メニューの「名前変更」でディレクトリ名を別の名前に付け替えてください。

4.5.2 名前変更

指定したファイルまたはディレクトリの名前を変更します。

MSXViewの日本語入力機能を使って、漢字でファイル名を付けることができます。しかし、同じディレクトリ上にすでにあるファイルと同じ名前を使うことはできません。また、拡張子は変更できません。

ファイル名を変更するファイルをクリックしてリバース表示にしたら、編集メニューから「名前変更」を選んでください。ダイアログボックスが開きます。

「名前変更」ではカレントディレクトリのファイルしかファイル名を変更できません。カレントディレクトリ以外のファイルを選択した状態にして編集メニューを選んでも「名前変更」は選択できない項目になっています。

ダイアログボックスが開いたら、カーソルキー（←、→）、BSキー、DELキーを使って変更したい部分を編集します。

ファイル名を入力するとき、入力する文字を半角と全角のどちらにするか、マウスで指定することができます。現在の種類は白マルの中に黒点が入り、どちらが選ばれているかを示します。

新しいファイル名を入力したら、リターンキーを押します。そのファイル名でよければ「設定」をクリックしてください。ファイル名が確定し、ディスクに変更された名前が登録します。変更したくなければ「中止」をクリックしてください。ファイル名は変更されません。

※　ファイル名の長さは、半角文字で8文字、全角文字で4文字までです。

4.5.3　削除

指定されたファイルをディスクから消去します。不要になったファイルを消したいときに使います。一度削除したファイルは復活できませんから、削除実行前にファイルの内容を確認してください。

削除したいファイルをクリックしてリバース表示にしたら、編集メニューから「削除」を選びます。

「削除」ではカレントディレクトリのファイルしか削除できません。カレントディレクトリ以外のファイルを選択状態にして編集メニューを選んでも「削除」は選択できない項目になっています。

本当に削除してもよいかどうかを確認するダイアログボックスを表示します。削除を実行するなら「削除」を、中止するなら「中止」を選択してください。

○　複数のファイルを削除する場合

複数のファイルを一度に削除するときは、ひとつひとつ確認しながら削除する方法と、一括して削除する方法が選べます。

・ひとつひとつのファイルを確認しながら削除する方法

削除を確認するダイアログボックスでファイル名を確認したら、「削除」をクリックしてください。次のファイル名が表示されますから、同じように「削除」または「中止」をクリックしていきます。

・一括して削除する方法

最初に確認のためのダイアログボックスが表示されたところで、「全部」をクリックしてください。指定したファイル全部を自動的に削除します。

4.5.4 複製

指定したファイルのコピーを作ります。

MSX-DOSの「COPY」コマンドと同じ働きですが、同じディレクトリ内にコピーをしたときは、自動的にファイル名を変更します。

コピーしたいファイルをクリックしてリバース表示にし、コピーしたいドライブまたはディレクトリに移動してから、編集メニューの「複製」を選びます。

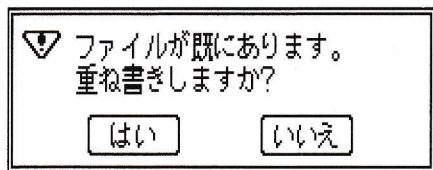
本当にコピーしてもよいかどうかを確認するダイアログボックスを表示します。コピーを実行するなら「複製」を、中止するなら「中止」を選択してください。

ドライブの移動は、タイトルメニューの「ドライブ変更」で行ってください。ディレクトリの移動はダブルクリックで行います。

[注意]　このとき、タイトルメニューの「読込」によるディレクトリ移動はできません。また、別のドライブにコピーするときは、指定したドライブにフォーマット済のディスクが入っていることを確認してください。

同じディレクトリ内でコピーを作成したときは、ファイル名の7文字目と8文字目を削除し（ないときはファイル名に追加します）、「_A」を付けます。また、すでに「_A」があるときは「_B」を、「_B」があるときは「_C」といったように、順番にアルファベットを変えていきます。「_Z」まで作ってしまった場合、それ以上そのファイルをコピーすることはできません。

ファイルが既にあります。
重ね書きしますか?
はい　いいえ

コピー先のディレクトリに、コピーしたいファイルと同じ名前のファイルがあったら、重ね書きをしてもよいかどうかを確認するダイアログボックスを表示します。

○複数のファイルをコピーする場合

複数のファイルを一度にコピーするときは、ひとつひとつ確認しながらコピーする方法と、一括してコピーする方法があります。

・ひとつひとつのファイルを確認しながらコピーする方法

コピーを確認するダイアログボックスでファイル名を確認したら、「複製」をクリックしてください。次のファイル名が表示されますから、同じように「複製」または「中止」をクリックしてください。

・一括してコピーする方法

最初に確認のためのダイアログボックスが表示されたところで、「全部」をクリックしてください。指定したファイル全部を自動的にコピーします。

4.5.5　移動

指定したファイルを移動します。

移動したいファイルをクリックしてリバース表示にし、移動したいドライブまたはディレクトリに移動してから、編集メニューの「移動」を選びます。

本当に移動してもよいかどうかを確認をするダイアログボックスを表示します。移動を実行するなら「移動」を、中止をするなら「中止」を選択してください。

ドライブの移動は、タイトルメニューの「ドライブ変更」で行ってください。ディレクトリの移動はダブルクリックで行います。

[注意]　このとき、タイトルメニューの「読込」によるディレクトリ移動はできません。

○複数のファイルを移動する場合

複数のファイルを一度に移動するときは、ひとつひとつ確認しながら移動する方法と、一括して移動する方法があります。

・ひとつひとつのファイルを確認しながら移動する方法

移動を確認するダイアログボックスでファイル名を確認したら、「移動」をクリックしてください。次のファイル名が表示されますから、同じように「移動」または「中止」をクリックしてください。

・一括して移動する方法

最初に確認のためのダイアログボックスが表示されたところで、「全部」をクリックしてください。指定したファイル全部を自動的に移動します。

4.5.6 全選択

現在のディレクトリにある全部のファイルを選択します。

編集メニューから「全選択」を選ぶと、現在画面に表示している全ファイルがリバース表示に変わります。

○ディレクトリ内の全ファイルを移動

「移動」と合わせて実行すると、ディレクトリ内の全ファイルをまとめて移動できます。

「全選択」を実行して全ファイルをリバース表示にし、移動先のディレクトリに移ったら、編集メニューの「移動」を選びます。

「削除」、「複写」も同じような操作でディレクトリ内の全ファイルを扱うことができます。

4.5.7 全解除

現在選択している全部のファイルを選択状態から解除し、リバース表示から通常の表示に戻します。

4.6 道具メニュー

DRAW	TED
PAINT	PAGEEDIT
PAGEVIEW	PAGELINK

MSXViewアプリケーションを起動します。

システムディスクに登録済みの「ViewDRAW」、「ViewTED」、「ViewPAINT」、「PageBOOK」は、ここから起動します。道具メニューから、使いたいアプリケーションを選んでください。

- DRAW　「ViewDRAW」をスタートします。「ViewDRAW」は図形用のエディタです。
- TED　「ViewTED」をスタートします。「ViewTED」はテキストエディタです。
- PAINT　「ViewPAINT」をスタートします。「ViewPAINT」はドット単位で図形を描くグラフィックエディタです。
- PageEDIT　「PageEDIT」をスタートします。「PageEDIT」はMSXView上で電子的な「本」のページを作成するためのアプリケーションです。
- PageLINK　「PageLINK」をスタートします。「PageLINK」はMSXView上で電子的な「本」を製本するためのアプリケーションです。
- PageVIEW　「PageVIEW」をスタートします。「PageVIEW」はMSXView上で電子的な「本」を見るためのアプリケーションです。

［注意］　PageVIEW以外のアプリケーションは、スタート直後は新規作成の画面になっています。

同じディスクに他のMSXViewアプリケーションを複製すれば、道具メニューの項目に加わり、同じ操作で起動できます。

4.7　表示メニュー

4.7.1　アイコン

ファイル名の先頭にアイコンを付けて、現在のディレクトリ内にあるファイルを表示します。

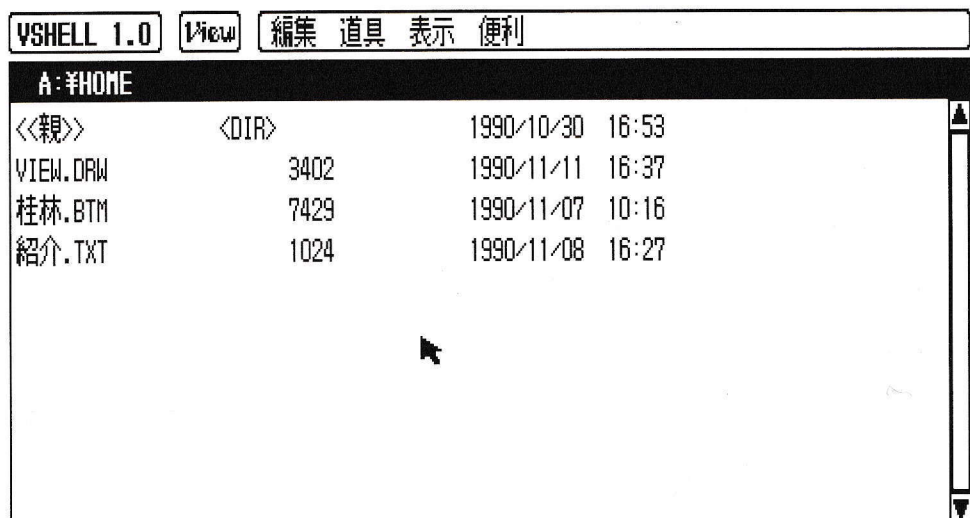
拡張子、ファイル作成日時、ファイルサイズは表示されません。

4.7.2　50音順

現在のディレクトリ内にあるファイル名をJIS漢字コード順に表示します。半角全角の順番は、下記のようになります。

英数字（半角）
↓
全角文字
↓
カタカナ（半角）

拡張子付きのファイル名、ファイルを作成した日時、ファイルサイズが表示されます。

```
VSHELL 1.0   View   編集 道具 表示 便利
A:¥HOME
<<親>>          <DIR>          1990/10/30  16:53
VIEW.DRW              3402     1990/11/11  16:37
桂林.BTM              7429     1990/11/07  10:16
紹介.TXT              1024     1990/11/08  16:27
```

4.7.3 種類

現在のディレクトリ内にあるファイルを拡張子のアルファベット順に表示します。

拡張子付きのファイル名、ファイルを作成した日時、ファイルサイズが表示されます。拡張子のないファイルとディレクトリは先頭に表示されます。

4.7.4 サイズ

現在のディレクトリ内にあるファイルをファイル容量の大きいものから順に表示します。

拡張子付きのファイル名、ファイルを作成した日時、ファイルサイズが表示されます。

4.7.5 日付

現在のディレクトリ内にあるファイルを作成した日付の新しいものから順に表示します。

拡張子付きのファイル名、ファイルを作成した日時、ファイルサイズが表示されます。

4.7.6 現状を整頓

アイコン付のファイル名を表示しているときファイルの左端を縦横揃えて表示仕直します。

4.7.7 詰めて整列

表示メニューの「アイコン」表示のとき、各ファイル名の空白を詰めて、ファイル名を左上から横方向で右下に表示します。

「詰めて整列」を選ぶ前にあらかじめ表示メニューで表示の変更をした場合（「50音」、「種類」、「サイズ」、「日付」）、それぞれの順番に並べ替えて整列します。

4.8 便利メニュー

4.8.1 ボリューム名変更

現在のボリューム名の設定／変更をします。

「ボリューム名」とは、フロッピーディスクなどに付ける「名前」のことです。通常は、何のためのディスクであるかの心覚えにしたり、個人用のデータディスクに自分の名前を書き込んでおくために使ったりします。ボリューム名は、「ボリュームラベル」ともいいます。

便利メニューの「ボリューム名変更」を選んでください。

既にボリューム名を設定してあるときは、そのボリューム名が表示され、入力待ち状態になります。

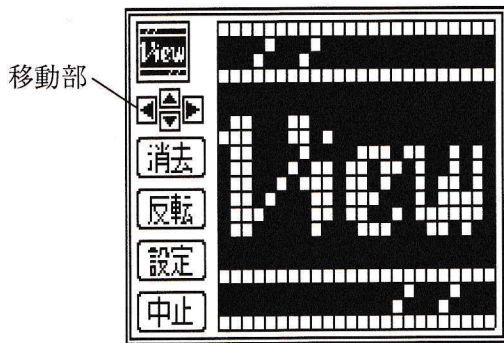
ボリューム名を設定していないときは、なにも表示せずに入力待ち状態になります。

カーソルキー（←、→）、BSキー、DELキーを使って変更してください。ボリューム名として設定できる文字数は、最高で全角で5文字、半角で11文字です。

ボリュームル名を入力するとき、入力する文字を半角と全角のどちらにするか、マウスで指定することができます。現在の種類は白マルの中に黒点が入り、どちらが選ばれているかを示します。

入力したものを新しいボリューム名として設定してよければ、「設定」をクリックしてください。設定後、VSHELLに戻ります。

ボリューム名を変更しないときは、「中止」をクリックしてください。変更せずにVSHELLに戻ります。

4.8.2　アイコンエディット

VSHELLに登録されているアイコンを自由にデザイン仕直すことができます。

アイコンのデザインを変更した場合、もとになったアイコンが付いているすべてのファイルのアイコンが同時に変更されます。

変更するときは、便利メニューから「アイコンエディット」を選んでください。アイコンの一覧が表示されますので、変更したいアイコンを選択してください。

アイコンエディタの横24×縦20のマス目にアイコンを表示します。ここでアイコンのデザインを変更します。

このマス目を使って文字を作ります。マス目をマウスカーソルでクリックするたびに、黒くなったり、白くなったりします。黒く塗られたマス目が実際に表示されるアイコンです。

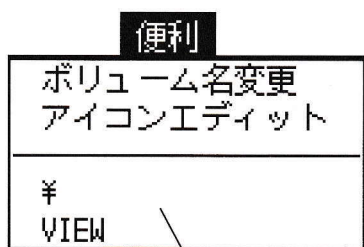
移動部　上下左右の三角形をクリックすることで、指定した三角形の方向へ1ドット移動します。

「消去」　全部のマス目をクリアし、白紙の状態にします。

「反転」　すべての黒いマス目を白に、白いマス目を黒にします。

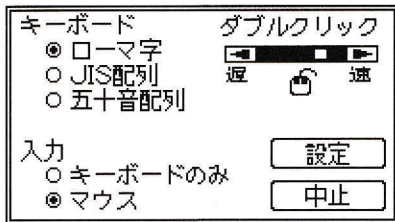
「設定」　変更したアイコンを保存して、アイコンエディタを終了します。

「中止」　アイコン編集を中止して、アイコンエディタを終了します。アイコンはもとのままです。

4.8.3 カレントパス

ルートディレクトリから現在のディレクトリに至るまでのディレクトリが順に表示されています。ディレクトリ名をクリックすると、そのディレクトリに移動します。

ルートディレクトリから現在のディレクトリまでのディレクトリの数が、ルートディレクトリの数も入れて10個までは、便利メニューに表示されます。

第5章　DA（デスクアクセサリ）

5.1　システム設定

「システム設定」は、キーボードの配列、入力装置の設定、ダブルクリックのスピード設定を使用している機種や用途に合わせて設定できます。この設定は、記憶されますから、MSXViewをスタートする度に設定する必要はありません。新たに設定を変更するまで有効です。

5.1.1　設定方法

（1）マウスカーソルを「デスクアクセサリ」バーに合わせてクリックします。

（2）マウスカーソルを移動して「システム設定」をリバース表示にしたら、もう一度クリックします。「システム設定」メニューが表示されます。「キーボード」、「入力」の各グループの内、白マルの中に黒点が入っているのが、現在設定されている項目です。「ダブルクリック」は、スライドバーでスピードを設定できるようになっています。

（3）以下の説明を読んで変更してください。設定を変更するときは、設定が終ってから「設定」をクリックしてください。設定を変更しないときは、「中止」をクリックしてください。

5.1.2　キーボード

「かな」キーが押され、かな入力状態になったときの入力方式を設定します。この設定をしても、英文字入力には影響ありません。

・ローマ字

タイプされた英文字のキーを、ローマ字読みの文字として受け付けます。

[K]、[A] とタイプすれば、「か」と表示します。かなキーの種類に関係なく、英文タイプライタのキー配列に慣れている人は、この方式が良いでしょう。

・JIS配列

かなキーの配列をJIS標準配列のキーボードとして設定します。

JIS配列のキーボードに慣れているときや、使用してるキーボードがJIS配列のときは、これを指定します。

・50音配列

かなキーの配列を、50音配列のキーボードとして設定します。

50音配列のキーボードに慣れているときや、使用しているキーボードが50音配列のときは、これを指定します。

5.1.3 入力

MSXViewでは、図形ポイントの指定やメニューの選択に、入力装置（ポインティングデバイス）としてマウスを使います。

ここでは、マウスを使うか、使わないかの指定をします。

5.1.4 ダブルクリック

ダブルクリックとは、マウスの左ボタンを「カチカチッ」と2度続けてクリックすることです。この2度のクリックの間隔をここで設定します。2回連続したクリックが設定した間隔よりも短かかったとき、「ダブルクリックをした」ことになります。

スライドボックスを左に寄せればクリックの間隔は長く、右に寄せればクリックの間隔は短くなります。

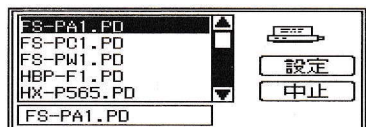
スライドボックスの動かし方には2種類あります。

- スライドバーの両端にある矢印マーク（スライドアロー）をクリックすると、それぞれの方向にスライドボックスが動きます。

- スライドボックスをクリックすると、スライドボックスを動かすことができます。適当な位置にスライドボックスを置いたら、設定のためもう一度クリックしてください。

設定後、マウスの絵が2回点滅します。この点滅の間隔が新たに設定したダブルクリックのスピードです。これを目安にダブルクリックのスピードを設定してください。

また、ダブルクリックの練習ができます。マウスの絵の上でダブルクリックしてください。現在設定してあるスピードでダブルクリックできたらマウスの絵が1回点滅します。

5.2 プリンタ

MSXViewでは、市販されている多くのプリンタに対応するために、プリンタドライバを使います。これは、各プリンタをコントロールする専用のプログラムで、使用しているプリンタに合ったものを設定します。

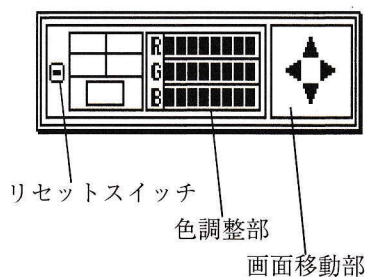
(1) マウスカーソルを「デスクアクセサリ」バーに合わせてクリックします。
(2) マウスカーソルを移動して「プリンタ」をリバース表示にしたら、もう一度クリックします。プリンタドライバを選択するためのファイルダイアログが開きます。
(3) プリンター覧表から必要なドライバを探し、その名前のドライバをクリックし、選択（リバース表示）にします。
(4) これで設定は終わりです。ファイルダイアログの下にある四角の中に表示されているドライバでよければ「設定」をクリックします。設定を変更しないときは「中止」をクリックします。

プリンタの設定はVSHELLを終了をするときにディスクに保存されます。一度プリンタドライバを設定すれば、新たに別のプリンタドライバを設定するまで有効です。

○プリンタドライバ一覧表

メーカー名	プリンタモデル	ドライバ名	備考
SONY	PRN-M24（第2水準漢字ROM無し）	M-1024.PD	
	PRN-M24（第2水準漢字ROM有り）	M-1024L2.PD	
	PRN-T24（漢字ROM無し）	PRN-T24.PD	注4
	PRN-T24（漢字ROM有り）	PRN-T24K.PD	
	HBP-F1	HBP-F1.PD	
	HBP-F1C	HBP-F1.PD	
Brother	M-1024X（第2水準漢字ROM無し）	M-1024X.PD	
	M-1024X（第2水準漢字ROM有り）	M-1024X2.PD	
	M-1024IIP/X（第2水準漢字ROM無し）	M-1024.PD	
	M-1024IIP/X（第2水準漢字ROM有り）	M-1024L2.PD	
	M-1224P/X	M-1024L2.PD	注4
National	FS-P400	M-1024.PD	
	FS-PW1	FS-PW1.PD	注1
	FS-PK1	M-1024L2.PD	
	FS-PA1	FS-PA1.PD	
	FS-PC1	FS-PC1.PD	
東芝	HX-P565	HX-P565.PD	
NEC	PC-PR201（第2水準漢字ROM無し）	PC-PR201.PD	
	PC-PR201（第2水準漢字ROM有り）	PCPR2012.PD	
EPSON	PI-40	PI-40.PD	注3
	VP-500（PCセット）	PCPR2012.PD	注2 注5
CANON	LBP406	LBP-201.PD	
関西電器	TR-24m	M-1024.PD	
スター精密	TR-24CL	PCPR2012.PD	注2

注1　GRAPH + STOP キーを押して印刷を中断した場合、プリンタ内に印字データが残ってしまいます。MSX本体とプリンタの電源を入れ直してください。
注2　全体的に左につまった印刷になります。用紙位置を調整してください。
注3　プリンタに漢字ROMを内蔵していないため、イメージ印刷になります。
注4　縮小印字モードで印刷した場合、小さな文字は判読できないことがあります。
注5　MSXシリーズでのサポートはメーカーでは行なっていません。

5.3　画面調整

MSXはアナログRGB対応の専用モニタから、一般的なテレビやビデオモニタまで、幅広く対応するように設計されています。しかし、組み合わせによっては、文字がにじんで読みにくかったり、隣接する色が重なり合っているように見えることがあります。

こんなときは、「画面調整」デスクアクセサリを使って画面の色や位置を調整してください。変更が終わったら、右ボタンをクリックしてください。一度調整すれば、新たに調整仕直すまで有効です。

変更した画面の色や位置はVSHELLを終了するときにディスクに保存されます。タイトルメニューの「終了」を使った正しい手順で終了してください。

5.3.1　色変更

画面各所の色を変更します。

変更した色が気に入らないときや、元にもどしたいときは、左端の「リセットスイッチ」をクリックします。色の変更方法は、RGB（赤、緑、青の3原色）の割合で決めていきます。

(1)　色変更したい色をクリックします。
(2)　RGBの色調整部をクリックします。割合を大きくしたいときは、範囲の右側を、割合を小さくしたいときは範囲の左側をクリックしてください。クリックする度に、画面の色が変わります。
(3)　他の部分も色変更するなら、(1)、(2) のステップを繰り返します。

5.3.2　画面位置調整

画面全体を上下左右に移動します。モニタによって、画面の端が切れることがありますが、これを補正します。

画面移動部の画面を移動したい方向の矢印をクリックしてください。画面全体が

移動します。これを数回繰り返して見やすい位置に設定してください。これを何度繰り返しても、モニタやMSX本体に悪い影響はありません。

5.4　単語登録／削除

入力した文字を、どれだけ正確に漢字かな混じり文に変換できるかは、辞書がどれだけ単語情報を持っているかによります。

例えば、医療用語や法律用語などは、一般的な単語ではありませんから、そのままの読みで変換することはできません。このような単語は、一度「単語登録」デスクアクセサリを使って登録します。そうしておけば、次回からは普通の単語と同じように変換できるようになります。また、不要になれば削除もできます。

5.4.1　単語登録のしくみ

ユーザーが登録できる単語の文字数は32文字以内です。カタカナ、漢字をはじめ、記号、外字などMSX-JEで入力できるすべての全角文字が使えます。ただし、半角文字は使えません。その単語を変換する読みも、ひらがなで32文字以内です。

単語を登録するときは、その単語に分類特性を持たせて、変換効率を良くします。分類特性とは、登録する単語が「名詞」、「地名」、「姓名」のどれなのかについての情報です。分類には、「名詞」、「地名」、「姓名」、「名前」、「～する」（サ変動詞）の5種類があります。

単語
読み
名詞　地名　姓名　名前　～する　登録　中止

例として、「プログラム」を「ぷろぐらむ」の読みで登録することを考えてみましょう。

・「名詞」として「プログラム」を登録した場合

「ぷろぐらむは」を変換すると「プログラムは」となりますが、「ぷろぐらむする」を変換すると、「ぷろぐらむ」と「する」の別々の単語として文節が区切られてしまい、「する」が「擦る」や「刷る」に変換されることがあります。

・「～する」として「プログラム」を登録した場合

「ぷろぐらむする」は「プログラムする」に変換され、「ぷろぐらむは」も「プログラムは」と正確に変換できます。

登録する単語がどう使われるかを考えて、最適な分類特性を選んでください。

5.4.2 単語登録の手順

(1) デスクアクセサリメニューから「単語登録」を選びます。
デスクアクセサリですから、VSHELLだけでなく、MSXViewアプリケーションを使っている間でも、好きなときに「単語登録」ができます。

(2) 単語登録ウィンドウが表示されます。

(3) 単語の欄にカーソルが表示されますから、登録する単語を入力して確定します。

(4) 間違いがなければ、リターンキーを押します。単語の欄から、読みの欄にカーソルが移動します。

(5) 読みをひらがなで入力します。ひらがなで8文字までです。ひらがなのままで確定してください。

(6) 間違いがなければ、「リターン」キーを押します。

(7) マウスカーソルを使って分類特性を選び、クリックしてください。選択した特性はリバース表示に変わります。マウスの代わりにカーソルキー（←、→）を使っても指定できます。

(8) ここまでの内容に間違いがないか確認してください。登録しないときは、「中止」をクリックします。単語登録ウィンドウが閉じます。改めて登録を行なうときは、もう一度最初からやり直してください。

(9) 間違いがなければ、「登録」をクリックします。単語登録が実行され、単語登録ウィンドウは閉じられます。

5.4.3 単語削除の手順

(1) 「デスクアクセサリ」メニューから「単語削除」を選びます。
デスクアクセサリですから、VSHELLだけでなく、MSXViewアプリケーションを使っている間でも、必要なときに「単語削除」ができます。

(2) 単語削除ウィンドウが表示されます。

単語
読み
名詞 地名 姓名 名前 ～する 削除 中止

(3) 単語登録と同じ操作を行ない、削除する単語、読み、分類特性を入力してください。

(4) ここまでの内容に間違いがないか確認してください。削除しないときは、「中止」をクリックします。単語削除ウィンドウが閉じます。削除した単語は、再登録しない限り使えません。

(5) 間違いがなければ、「削除」をクリックします。単語削除が実行され、単語削除ウィンドウは閉じられます。

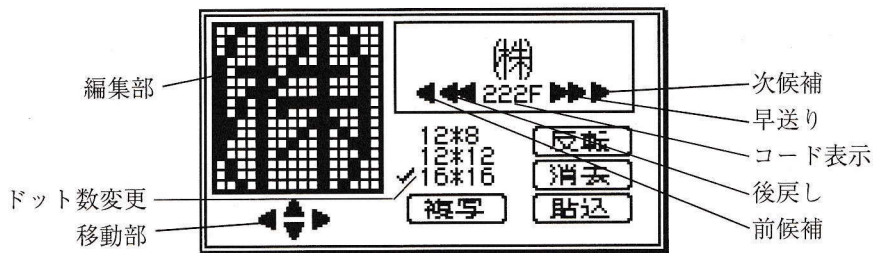
5.5　外字作成

単語登録で新しい語句を登録したように、新しい文字を登録するのが、この「外字作成」です。

MSXView漢字ROMには、JIS規格で決められた第一水準、第二水準、合わせて約6300文字の漢字と、ひらがな、カタカナ、記号など500文字の非漢字文字が登録してあります。しかし、会社のマークやロゴ、また特種な漢字などは新たに作成して登録することになります。このように新しく制作する文字のことを「外字」と呼びます。

MSXViewでは64文字までの外字を登録できます。外字は、記号入力によって取り出します。

5.5.1　外字作成ウィンドウ

「デスクアクセサリ」メニューから「外字作成」を選ぶと、外字作成のための機能を持った、外字作成ウィンドウが表示されます。

外字編集部　このマス目（ドット）を使って文字を作ります。マス目をマウスカーソルでクリックする度に、黒くなったり、白くなったりします。黒いマス目の部分が、実際に画面に表示したり、印刷される部分です。

登録部　登録するJISコードを選びます。JISコード222Fから227Eと2321から232Eまでの文字を一文字ずつ表示します。未登録部分のコードは枠内が空白になります。

・コード表示－現在表示している外字のコード番号を表示します。
・次候補－次のJISコードの文字を画面に表示します。
・前候補－前のJISコードの文字を画面に表示します。
・早送り－16個先のJISコードの文字を画面に表示します。
・後戻し－16個前のJISコードの文字を画面に表示します。

移動部　上下左右のそれぞれの三角形をクリックすると、外字編集部のドットをクリックした方向に1ドット単位で移動します。移動した結果、枠外に追いやられたドットは、移動した反対方向に表示されます。

反転　　　　外字編集部の表示をリバース表示にします。
複写　　　　現在外字編集部に表示されているドットの状態を記憶します。
貼込　　　　「複写」したドットの状態を、現在編集している外字編集部に重ねて表示します。類似した文字から編集するときに便利です。
消去　　　　外字編集部のドットすべてクリアし、白紙の状態にします。新たに外字を作りたいときに使用します。
ドット数変更　MSXViewアプリケーションには、「ViewDRAW」など、文字の大きさを変更できるものがあります。大きさを変更するときは、元となる大きさを基準に拡大・縮小していきます。

・12*8　　12×8ドットのみです。
・16*16　　16ドット、32ドット、8ドットの文字を作ります。
・12*12　　12ドット、24ドットの文字を作ります。

現在選択されているドット数には、チェックマークが付きます。大きさを変更するときは、マウスカーソルを数字に合わせてクリックしてください。

5.5.2　外字作成の手順

(1)　「デスクアクセサリ」メニューから、「外字作成」を選びます。
外字作成ウィンドウが表示されます。
(2)　登録部に登録（または編集）したいコード番号を選びます。新規に外字を作成するときは、空白になっているコードを使います。

[注意]　すでに記号などが登録されているコードに重ねて登録すると、前にあった文字は消去され、復活できませんから注意してください。

(3)　各編集機能を使って外字を作成します。
(4)　作成、編集が終わったら、他のドット数を指定して編集します。

[注意]　高品質の画面表示や印字結果を得るためにも、全ドット数で作成、編集してください。

(5)　外字の作成が終了したら、右ボタンをクリック。外字作成ウィンドウが閉じ、外字が記憶されます。

付録A キー操作一覧

MSXViewはマウスによる操作を基本としていますが、ある部分はキー操作によって一層使いやすくなります。ここでは便利なキー操作の一覧を用意しました。この中で [CTRL] + [Y] のように表示されているものは [CTRL] キーを押しながら [Y] キーを押す、という意味です。

A.1 メニューバー操作

操作	キー
タイトルメニュー	[SELECT]
デスクアクセサリメニュー	[STOP]
編集メニュー	[F1]
道具メニュー	[F2]
表示メニュー	[F3]
便利メニュー	[F4]
メニュー表示の中止	[ESC]

A.2 マウスの代行操作

操作	キー
マウスカーソルの移動	[GRAPH] + カーソルキー
左ボタン	[GRAPH] + [SELECT]
	リターンキー
右ボタン	[GRAPH] + [STOP]
	[ESC]

A.3 文字入力操作

操作	キー
ひらがな・カタカナ切り換え	[TAB]
カタカナへの変換	[CTRL] + [I]
ひらがなへの変換	[CTRL] + [U]
文節確定	[↓]
	[CTRL] + [N]
文節延長	[→]
文節短縮	[←]
記号入力	[CTRL] + [@]
半角変換	[CTRL] + [O]
英数字変換	[CTRL] + [P]

A.4 ショートカットキー

ショートカットキーとはマウスでメニューをクリックする代わりに、1回のキー操作でクリック1～3回分の操作を行なうものです。［GRAPH］キーを押しながら以下のキーを押すことで機能を実行します。

A.4.1 タイトルメニュー

ドライブ変更	［GRAPH］＋［D］
読込	［GRAPH］＋［L］
ファイル情報	［GRAPH］＋［I］
印刷	［GRAPH］＋［P］
終了	［GRAPH］＋［Q］

A.4.2 編集メニュー

名前変更	［GRAPH］＋［R］
削除	［GRAPH］＋［X］
複製	［GRAPH］＋［C］
移動	［GRAPH］＋［M］
全選択	［GRAPH］＋［A］
全解除	［GRAPH］＋［K］

A.4.3 確認ダイアログ

はい	［GRAPH］＋［Y］
いいえ	［GRAPH］＋［N］

付録B　エラーメッセージ一覧

この他にMSX-DOS2のエラーメッセージも表示しますので、ここに書かれていないエラーメッセージはMSX-DOS2のマニュアルのエラーメッセージ一覧を参照してください。

B.1 VSHELL　エラーメッセージ一覧

下記のエラーメッセージはVSHELLのエラーメッセージです。

表示：　ディレクトリを自分自身の下に複製しようとしています
原因：　ディレクトリの複製を、自分自身の下に作ろうとしている時に発生します。
例：　¥HOME を ¥HOME¥TEST に複製しようとした時

表示：　これ以上複製を作れません
原因：　同じディレクトリ内で複製を行った場合に作られるファイル名がいっぱいになってしまった時に発生します。
例：　TEST_A , TEST_B , TEST_C ... TEST_Z という名前のファイルが全て存在するディレクトリで、TEST を複製しようとした時

表示：　ディレクトリが既にあります
原因：　ディレクトリを他のディレクトリに移動しようとした時、移動先に同じ名前のディレクトリが存在した場合に発生します。
例：　¥HOME¥TEST というディレクトリを ¥CLIP に移動しようとした場合、既に¥CLIPに TEST という名前のディレクトリがあった時

表示：　ファイルが既にあります
原因：　ファイルを他のディレクトリに移動しようとした時、移動先に同じ名前のファイルが存在した場合に発生します。
例：　¥HOME¥TEST というファイルを ¥CLIP に移動しようとした場合既に ¥CLIP に TEST という名前のファイルがあった時

表示：　同じディレクトリには移動できません
原因：　ディレクトリ又はファイルを同じディレクトリに移動しようとした時に発生します。
例：　¥HOME¥TEST を ¥HOME に移動しようとした時

表示：　これ以上ディレクトリを作れません
原因：　同じディレクトリ内で新規ディレクトリを行った場合に作られるディレクトリ名がいっぱいになってしまった時に発生します。
例：　TEST_A , TEST_B , TEST_C ... TEST_Z という名前のディレクトリが全て存在するディレクトリで、新規ディレクトリを実行した時

表示：　ディレクトリ階層が深すぎます
原因：　ディレクトリの複製、移動、削除などをしようとした時、そのディレクトリが深い階層を持っていた場合に発生します。エラーの発生する階層の深さは、その時のファイルの数などで変化します。

表示：　ファイルの数が多すぎます
原因：　1個のディレクトリ内にあるファイル及びディレクトリの数が120を越えた場合に発生します。複製や移動などの作業中にこのエラーが発生した場合には作業は中断されます。

表示：　印刷する道具が見つかりません
原因：　ファイルを印刷しようとした時、そのファイルがMSXView上のアプリケーションで作られた物でない時、又はそのファイルを作ったMSXViewアプリケーションが見つからない場合に発生します。
例：　COMMAND2.COM を印刷しようとした時

表示：　使用する道具が見つかりません
原因：　ファイルを読み込もうとした時、そのファイルがMSXView上のアプリケーションで作られた物でない時、又はそのファイルを作ったMSXViewアプリケーションが見つからない場合に発生します。
例：　COMMAND2.COM を読み込もうとした、又はダブルクリックした時

表示：　パス名が長すぎます
原因：　ディレクトリの移動などをしようとした時、パス名が64文字を越えてしまう場合に発生します。

表示：　アイコンファイルが見つかりません
原因：　アイコンパターンが格納されているファイル（ICONPAT.VS）が、¥VIEW のディレクトリにない時、又は環境変数 VIEW で指定されるディレクトリにない場合に発生します。
この場合、ディレクトリ用とファイル用に、あらかじめ用意されたアイコンが表示されます。また、この時のアイコンはエディットできません。

表示：　拡張子とアイコンの関係ファイルが見つかりません
原因：　拡張子とアイコンの関係が格納されているファイル（ICONEXT.VS）が、¥VIEWのディレクトリにない時、又は環境変数 VIEW で指定されるディレクトリにない場合に発生します。

表示：　VSHELLが異常です
原因：　何らかの原因で、VSHELLが壊れてしまった可能性がある場合に発生します。
このエラーメッセージは、普段の使用では発生しないものです。もし、このエラーメッセージが表示された場合には、すみやかに現在の作業を終了して、¥MSXViewを立ちあげ直すことをお勧めします。

B.2　単語登録　エラーメッセージ

下記のエラーメッセージは、単語登録DAが出すエラーメッセージです。

表示：　「単語」に誤りがあります
原因：　登録しようとした単語に誤りのある場合に発生します。
単語はシフトJISコードで表現される、1文字～32文字（2バイト～64バイト）の範囲に収まるものとします。
例：　単語に半角文字が混ざっていた時

表示：　「読み」に誤りがあります
原因：　登録しようとした単語の読みに誤りのある場合に発生します。
読みはシフトJISコードで表現される、1文字～32文字（2バイト～64バイト）の範囲に収まるものとします。
また、次の6文字は読みとして登録できません。
「ヮ」、「ヰ」、「ヱ」、「ヴ」、「ヵ」、「ヶ」
例：　読みに半角文字が混ざっていた時

表示：　同音語数が多すぎます
原因1：　同音語の単語の数が255個を越えた場合に発生します。
原因2：　辞書に空き領域が無くなった場合に発生します。

表示：　プログラムが異常です
原因：　何らかの原因で、単語登録プログラムが壊れてしまった場合に発生します。
このエラーメッセージは、普段の使用では発生しないものです。もし、このエラーメッセージが表示された場合には、すみやかに現在の作業を終了して、MSXViewを立ちあげ直すことをお勧めします。

B.3 単語削除　エラーメッセージ

下記のエラーメッセージは、単語削除DAが出すエラーメッセージです。

表示：　「単語」に誤りがあります
原因：　削除しようとした単語に誤りのある場合に発生します。
単語はシフトJISコードで表現される、1文字〜32文字（2バイト〜64バイト）の範囲に収まるものとします。
例：　単語に半角文字が混ざっていた時

表示：　「読み」に誤りがあります
原因：　削除しようとした単語の読みに誤りのある場合に発生します。
読みはシフトJISコードで表現される、1文字〜32文字（2バイト〜64バイト）の範囲に収まるものとします。また、次の6文字は読みとして登録できません。
「ゎ」、「ゐ」、「ゑ」、「ヴ」、「ヵ」、「ヶ」
例：　読みに半角文字が混ざっていた時

表示：　単語が登録されていません
原因：　登録されていない単語を削除しようとした場合に発生します。

表示：　プログラムが異常です
原因：　何らかの原因で、単語削除プログラムが壊れてしまった場合に発生します。
このエラーメッセージは、普段の使用では発生しないものです。もし、このエラーメッセージが表示された場合には、すみやかに現在の作業を終了して、MSXViewを立ちあげ直すことをお勧めします。

お問い合わせについて

弊社では厳重に梱包した上、細心の注意を払って製品を発送しております。万一、輸送上のトラブルが起こった場合にはご一報いただければ新しいものと交換いたします。

マニュアル作成にあたり、なるべく詳細な説明をするように心がけたつもりですが、理解できないところは、実際にコンピュータと向き合って納得のゆくまで確かめてください。また、他のページを参照するのもひとつの方法です。それでも疑問点が解決できないときは、購入された販売店に問い合わせるか、株式会社アスキー　ユーザーサポート（直通電話　03-498-0299）までお電話いただければ、係りがお答えいたします。しかしながら、回線が混み合いご迷惑をかけることもありますので、なるべくお手紙にてお願いいたします。その際には、下記の要領で記入してください。記入されていない項目がひとつでもありますと、解答できかねる場合があります。十分注意してください。

また、本製品以外に対してのご意見、ご希望がありましたら、弊社までお寄せください。

【記】

1. 送付先

〒107-24 東京都港区南青山6-11-1　スリーエフ南青山ビル
株式会社アスキー　ユーザーサポート係
TEL.　03-498-0299
（祝祭日を除く月～金曜日、10:00～12:00, 13:00～17:00）

2. 必要事項

(a) お客様の氏名、住所（郵便番号）、電話番号（市外局番も含む）
(b) 製品名、製品シリアル番号、ユーザーID番号
(c) 機器構成
本体装置名
CRT装置名、フロッピーディスク装置名
プリンタ装置名
その他I/O、I/F装置名
(d) お問い合わせ内容
お問い合わせの内容は、できるだけ製品のマニュアルに記載されている用語を用いて、具体的かつ明確に記述してください。なお、障害と思われる現象については、その現象を再現可能な情報が必要です。当社で再現できないものは、調査ができません。その現象が発生するまでの操作手順、データを必ず添付してください。データディスクがある場合は、そのコピーも同封していただくと調査がスピーディになります。

MSXView　VSHELLマニュアル

1990年12月1日　第1版第1刷

編集　　株式会社アスキー　システム事業部

担当　三島　淳、松本　有子

発行所　株式会社アスキー

〒107-24　東京都港区南青山6-11-1　スリーエフ南青山ビル

印刷　　三共グラビヤ印刷株式会社

MSX turbo R MSX View VSHELLマニュアル